

田中周友博士略年譜・著作目録 (十三訂稿)

(平成9 (1997) 年3月27日 (木) 初版 (稿) 作成)

(令和6 (2024) 年6月7日 (金) 十三訂稿作成)

〔目 次〕

【作成経緯】	3
【田中周友博士略年譜・著作目録各版紹介】 (WEB版、冊子版乃至CD版)	5
【参考HP】	9
【関連HP】	12
十三訂稿はしがき	15
十二訂稿はしがき	15
十一訂稿はしがき	16
十訂稿はしがき	16
九訂稿はしがき	16
八訂稿はしがき	17
七訂稿はしがき	17
六訂稿はしがき	18
(旧版各はしがき)	19
五訂版に当たりて	19
四訂版に当たりて	19
三訂版に当たりて	20
二訂版に当たりて	20
改訂版に当たりて	20
はじめに (初版)	21
1 略年譜	23
2 著作目録	27
(1) 著書・訳書	27
〔参考1、2: 田中周友博士学位論文関係〕	27
田中周友『古代庇護法史研究』(学位論文 昭和19年9月12日学位授与) 目次	28
(2) 講義録、出版予告書その他	31
(3) 編書	32
(4) 論説	33
(5) 邦訳	36
(6) 書評	39
(7) 小品集	40
(8) 追悼文	41

(9) 外国法	43
(10) 辞典項目	44
(11) その他	45
(12) 報告(抄)	47
(13) 田中周友博士出題試験問題(戦後)	48
(14) 書関係	52
(15) 冠句関係	53
(冠句関係資料)	54
*1 『文藝塔』所載田中周友博士著作	55
(参考)『文藝塔』所載田中周友博士関係記事	56
*2 文芸塔社刊行物所載田中周友博士著作	58
*3 『冠句京都』所載田中周友博士著作	59
*4 『冠句』所載田中周友博士著作	59
*5 田中周友博士書関係(「(14)書関係」参照。)	59
(16) 田中家文書関係資料	60
ア 京都女子大学図書館所蔵『下鴨社家日記』(田中家日記)関係資料	60
イ その他	61
(17) 田中周友博士御旧邸をめぐる夏目漱石関係	62
経薫「夏目漱石の明治40年3月末京洛滞在地について—田中周友先生御旧邸をめぐって」	62
(別稿1)「田中周友先生御旧邸と夏目漱石滞在関係『毎日新聞』各版記事比較対照表」	65
(別稿2)「明治40年3月末〔夏目〕漱石京洛滞在地覚書—田中周友先生御旧邸をめぐって—」	71
(18) 田中周友博士関連著作	76
(19) 田中周友博士関連報告	87
(20) インターネット関係	89
(調査中)(試験問題追加その他)	89
【参考】【五訂版(五訂稿)人名索引】	91~98

【作成経緯】

- ・平成 9 (1997) 年 3 月 27 日 (木) 初版 (稿) 作成
- ・平成 10 (1998) 年 3 月 1 日 改訂版 (稿) 作成
- (HP 初載) ・平成 15 (2003) 年 10 月 1 日 二訂版 (稿) 作成、アップ (テキスト版)
(爾後、冊子版掲載の三訂版 (三訂稿)、四訂版 (四訂稿)、五訂版 (五訂稿) とは別途に、HP 上で逐次補訂を繰り返す。)
- ・平成 18 (2006) 年 10 月 1 日 三訂版 (三訂稿) 作成 (アップせず。)
- ・平成 25 (2013) 年 9 月 1 日 四訂版 (四訂稿) 作成 (アップせず。)
- ・平成 27 (2015) 年 5 月 31 日 五訂版 (五訂稿) 作成 (アップせず。)
- ・平成 29 (2017) 年 11 月 23 日 (木) 六訂版 (六訂稿) 作成 (PDF 版に変更、アップ (PDF 版)。以下「版」は削除し「稿」のみ使用。)
(本六訂稿は、その後『CD 版 ローマ法、法制史、明治警察史及び日本統治下台湾警察史の諸問題—ローマ法・法制史学者著作目録選 (第十三輯)— 一明治警察史雑纂 (第四輯)— 一日本統治下台湾警察史雑纂 (第八輯)— 』(平成 30 (2018) 年 1 月 1 日刊) にも収録した。)
(<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm>)
(爾後七訂稿に移行するまで六訂稿枝番の「六訂稿-1、同-2」を作成)
- ・令和元 (2019) 年 5 月 13 日 (月) 六訂稿-1 作成
(上記六訂稿に冒頭レイアウト変更の上多少の修正を加えたもの。)
- ・令和 2 (2020) 年 2 月 2 日 (日) 六訂稿-2 作成
(「2 著作目録 (1) 著書・訳書」に「講義録」項目を新設し、「田中周友講述「羅馬法」」を追加した。)
- ・令和 3 (2021) 年 11 月 7 日 (日) 七訂稿作成
(レイアウトを全面変更、一部修正)
- ・令和 4 (2022) 年 2 月 1 日 (火) 八訂稿作成
(『CD 版: 上山安敏先生略年譜・著作目録 (五訂版) — 上山安敏先生追悼 — 一併載: 【附属参考資料 1】 上山安敏先生エッセイ集 (1964~2004) 【附属参考資料 2】 田中周友博士略年譜・著作目録 (八訂稿) — 一ローマ法・法制史学者著作目録選 (第十四輯) — 』(令和 4 (2022) 年 2 月 1 日刊) に収録。)
- ・令和 4 (2022) 年 4 月 1 日 (金) 九訂稿作成
(一部修正の上、『CD 版 宮崎道三郎博士・小林宏先生・西村稔先生・高橋由利子先生略年譜・著作目録—【参考篇】【附篇】—ローマ法・法制史学者著作目録選 (第十五輯) — 』(令和 4 (2022) 年 4 月 1 日刊) に収録。)
- ・令和 4 (2022) 年 7 月 3 日 (日) 十訂稿作成
(一部修正した。)

- ・令和 5（2022）年 5 月 22 日（月）十一訂稿作成
（一部修正した。）
- ・令和 6（2024）年 1 月 1 日（月）十二訂稿作成
（一部修正の上、『CD 版 上山安敏先生・柴田光蔵先生・西村稔先生・宮崎道三郎博士・池辺義象氏・小林宏先生・千賀鶴太郎博士・戸水寛人博士略年譜・著作目録 附録：「日本ローマ法・法制史学者等略年譜・著作目録・追悼辞」掲載資料抄（追補）中田薫博士・瀧川政次郎博士・三浦周行博士・牧健二博士各関係資料抄 一ローマ法・法制史学者著作目録選（第十六輯）一』（CD 版、令和 6（2024）年 1 月 1 日刊）中の「上山安敏先生略年譜・著作目録（六訂版）—上山安敏先生追悼Ⅱ—」に「【附属参考資料 2】田中周友博士略年譜・著作目録（十二訂稿）」として収録。）
- ・令和 6（2024）年 6 月 7 日（金）十三訂稿作成
（「2 著作目録」中に「(19) 田中周友博士関連報告」を新設追加した。その他一部修正した。）

【田中周友博士略年譜・著作目録各版紹介】(WEB版、冊子版乃至CD版)

・(十三訂稿)：「2 著作目録」に「(19) 田中周友博士関連報告」を追加した。その他一部補正した。

(令和6(2024)年6月7日作成)

・(十二訂稿)：『CD版 上山安敏先生・柴田光蔵先生・西村稔先生・宮崎道三郎博士・池辺義象氏・小林宏先生略年譜・千賀鶴太郎博士・戸水寛人博士著作目録 附録：「日本ローマ法・法制史学者等略年譜・著作目録・追悼辞」掲載資料抄 (追補) 中田薫博士・瀧川政次郎博士・三浦周行博士・牧健二博士各関係資料抄 ―ローマ法・法制史学者著作目録選(第十六輯)―』(CD版、令和6(2024)年1月1日刊)中の「上山安敏先生略年譜・著作目録(六訂版)―上山安敏先生追悼Ⅱ―」に「【附属参考資料2】田中周友博士略年譜・著作目録(十二訂稿)」として収載のため、十二訂稿を作成した。

(令和6(2024)年1月1日作成)

・(十一訂稿)：「2 著作目録 (16) 田中家文書関係資料」中に「ア 京都女子大学図書館所蔵『下鴨社家日記』(田中家日記) 関係資料」を新設するとともに、柴田光蔵先生追悼関係文献追加等一部補正を加えた

(令和5(2023)年5月22日作成)

・(十訂稿)：下記『CD版 宮崎道三郎博士・小林宏先生・西村稔先生・高橋由利子先生略年譜・著作目録―【参考篇】【附篇】―ローマ法・法制史学者著作目録選(第十五輯)―』(令和4(2022)年4月1日刊)に収録の九訂稿に一部補正を加えた(WEB版)。

(令和4(2022)年7月3日作成)

・(九訂稿)：下記八訂稿を一部修正した九訂稿を作成し、『CD版 宮崎道三郎博士・小林宏先生・西村稔先生・高橋由利子先生略年譜・著作目録―【参考篇】【附篇】―ローマ法・法制史学者著作目録選(第十五輯)―』(令和4(2022)年4月1日刊)に収録した。

(令和4(2022)年4月1日作成)

・(八訂稿)：『CD版：上山安敏先生略年譜・著作目録(五訂版)―上山安敏先生追悼―併載：【附属参考資料1】上山安敏先生エッセイ集(1964～2004) 【附属参考資料2】田中周友博士略年譜・著作目録(八訂稿)―ローマ法・法制史学者著作目録選(第十四輯)―』(令和4(2022)年2月1日刊)に収載のため、八訂稿を作成した。

(令和4(2022)年2月1日作成)

・(七訂稿)：近々他用の用途をもって、七訂稿を作成した。従来のレイアウトを全面的に変更し、一部修正を施した(WEB版)。

(令和3(2021)年11月6日作成)

・(六訂稿)：『CD版ローマ法、法制史、明治警察史及び日本統治下台湾警察史の諸問題—ローマ法・法制史学者著作目録選(第十三輯)—明治警察史雜纂(第四輯)—日本統治下台湾警察史雜纂(第八輯)—』(平成30(2018)年1月1日刊)所載「田中周友博士略年譜・著作目録(六訂版(六訂稿))」(今後は「版」をやめ、「稿」のみを使用することとする。)

(六訂稿訂正状況)

(六訂稿-1)(WEB版)

下記六訂稿から七訂稿への移行作業中のものについては、当面六訂稿の枝番を付して逐次収録していくこととする。

文中「近代デジタルライブラリー〈<http://kindai.ndl.go.jp/>〉」は、「国立国会図書館デジタルコレクション〈<http://dl.ndl.go.jp/>〉」に変更されていることをお断りしておく。

(令和元(2019)年5月13日(月)記)

(六訂稿-2)(WEB版)

取り敢えず「(1)-2 講義録」を新設し、戦前の講義録1冊分を収録し、従来「(1) 著書・訳書」中末尾にあった「[参考]」もそこに移した。

(令和2(2020)年2月2日(日)記)

・(五訂版)：『上山安敏先生略年譜・著作目録(三訂版)(完成稿)—卒壽記念—ローマ法・法制史学者著作目録選(第十一輯)(完成稿)—』(平成27(2015)年5月31日刊)所載「附属参考資料 田中周友博士略年譜・著作目録(五訂版(五訂稿。))」(CD版:平成27年5月31日刊、冊子版:同年7月31日刊)

・(四訂版)：『CD版春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士・武藤智雄教授・千賀鶴太郎博士・戸水寛人博士・池辺義象氏略年譜・著作目録—日本ローマ法学七先生略年譜・著作目録(新訂版)—ローマ法・法制史学者著作目録選(第十輯)—』(平成25(2013)年9月1日刊。CD版のみ。)

①『春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士・武藤智雄教授略年譜・著作目録—日本ローマ法学五先生略年譜・著作目録(四訂版)—ローマ法・法制史学者著作目録選(第十輯之一)—』

②『千賀鶴太郎博士・戸水寛人博士・池辺義象氏略年譜・著作目録(改訂版)—日本ローマ法学七先生略年譜・著作目録(千賀博士・戸水博士限定追加版(改訂版))—ローマ法・法制史学者著作目録選(第十輯之二)—』

・(三訂版)：『春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士・武藤智雄教授略年譜・著作目録—日本ローマ法学五先生略年譜・著作目録(三訂版)—ローマ法・法制史学者著作目録選(第七輯)—』(平成18(2006)年10月1日刊。冊子版及びCD版)

・(二訂版)：『春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士略年譜・著作目録—日本ローマ法学四先生略年譜・著作目録(二訂版)—ローマ法・法制史学者著作目録選(第二輯)—』(平成15(2003)年10月1日刊。冊子版のみ。)(※『ローマ法・法制史学者著作目録選』：平成15(2003)年9月1日創刊)

・(改訂版)：『日本ローマ法学四先生略年譜・著作目録(初稿)[改訂版] 春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士』(平成10(1998)年3月1日刊。冊子版のみ。)

・(初版)：『日本ローマ法学四先生略年譜・著作目録(初稿) 春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士』(平成9(1997)年3月27日刊。冊子版のみ。)

【参考 HP】

(令和 3 (2021) 年 11 月 7 日全面差替、同年 12 月 5 日、同 4 (2022) 年 7 月 3 日、同 5 (2023) 年 5 月 22 日、同 6 (2024) 年 1 月 1 日各一部修正)

* 法制史学会 HP (平成 14 (2002) 年 10 月 5 日公開、平成 24 (2012) 年 4 月 1 日移転)

〈<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jalha/toppage.htm>〉 ⇒

(新) 〈<https://www.jalha.org/>〉

・ 〈<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%8A%E5%B1%B1%E5%AE%89%E6%95%8F>〉

* 全体 HP

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/>〉

・ 「日本のローマ法」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Romanist2003.htm>〉

・ 「法制史学者著作目録選 (WEB 版)」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm>〉

・ 「法制史コーナー」 所載項目一覧」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ichiran002.pdf>〉

・ 本 HP 別稿: 宮崎道三郎博士略年譜・著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/miyazaki001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿: 池辺義象氏著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ikebe001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿: 三浦周行博士関係資料抄

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/miura001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿: 中田薫博士関係資料抄

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nakata001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿: 牧健二博士関係資料抄

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/makikenji001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿: 内藤吉之助教授略年譜・著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/naito001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿: 瀧川政次郎博士関係資料抄

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/takikawa001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿: 金田平一郎博士略年譜・著作目録

〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kaneda001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿: 小早川欣吾先生略年譜・著作目録

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayakawa001.pdf>〉

・ 本 HP 別稿: 「小早川欣吾先生記念メダルによせて

—小田輝子氏「叔父小早川欣吾の思い出」とともに—

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/odateruko.pdf>〉

- ・本 HP 別稿: 『小早川欣吾先生東洋法制史論集』収録論稿目次その他
 <https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayakawa_toyohoseishi.pdf>
- ・本 HP 別稿: 牧英正博士著作目録等抄
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/maki001.pdf>>
- ・本 HP 別稿: 小林宏先生著作目録等抄
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kobayashi001.pdf>>
- ・本HP別稿: 千賀鶴太郎博士著作目録
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/senga001.pdf>>
- ・本HP別稿: 戸水寛人博士著作目録
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tomizu001.pdf>>
- ・本HP別稿: 春木一郎博士略年譜・著作目録
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/haruki001.pdf>>
- ・本HP別稿: 原田慶吉教授略年譜・著作目録
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/harada2003.htm>>
- ・本HP別稿: 船田享二博士略年譜・著作目録
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/funada2003b.htm>>
- ・本HP本稿: 田中周友博士略年譜・著作目録
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tanaka2003b.htm>>
- ・本HP別稿: 栗生武夫先生略年譜・著作目録
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu001.pdf>>
- ・本 HP 別稿: 「栗生武夫先生『婚姻法の近代化』の中訳本について」
 <https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_chuhon.pdf>
- ・本 HP 別稿: 「『栗生武夫先生隨筆拾遺』作成の思い出
 —『栗生武夫先生隨筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯—」
 <https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_zuihitsu_shui.pdf>
- ・本 HP 別稿: PDF 版『栗生武夫先生隨筆拾遺—栗生武夫先生単行本未収録論稿集第一輯—』
 <https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kuryu_zuihitsu_shui_002.pdf>
- ・本HP別稿: 西本穎博士著作目録等抄
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nishimoto001.pdf>>
- ・本HP別稿: 久保正幡博士著作目録等抄
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kubo001.pdf>>
- ・本HP別稿: 井上周三教授関係資料抄
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/inoue001.pdf>>
- ・本HP別稿: 上山安敏先生著作目録等抄
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ueyama001.pdf>>
- ・本HP本別稿: 笥克彦博士略年譜・著作目録
 <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kakei001.pdf>>

- ・本HP別稿: 近藤英吉博士略年譜・著作目録
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kondo001.pdf>〉
- ・本HP別稿: 増田福太郎博士関係資料一斑
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/masuda001.pdf>〉
- ・本 HP 別稿: 山崎丹照先生著作目録
 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/yamazaki001.pdf>〉
- ・本 HP 別稿: 戴炎輝博士略年譜・著作目録
 〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Tai_Yen-hui001.pdf〉

* 和田徹氏HP「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」（⇒令和5（2023）年12月31日閉館）

- 〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/>〉
- ・春木一郎電子文庫（和田徹氏寄贈図書）
 〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/haruki.htm>〉
- ・原田慶吉電子文庫（和田徹氏寄贈図書）
 〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/harada.htm>〉
- ・栗生武夫電子文庫（和田徹氏寄贈図書）
 〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/kuryu.htm>〉
- ・いろいろ電子文庫
 〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/iroiro.htm>〉
- ・PD 図書室（「梅雨空文庫」のデータを整理してまとめたもの）
 〈<http://books.salterrae.net/about/tuyuzora.html>〉
 （註）早くには「船田享二電子文庫」の平成22（2010）年開設予告もなされていた（平成14（2002）年12月14日初出か?）が、その後平成18（2006）年6月3日に「2006/06/03 船田享二電子文庫計画中止」の表示が出た。

.....

* 先に閉館した上記和田徹氏 HP「私立玉川用賀村中央図書館（新館）」は、令和6（2024）6月5日（水、公開公表日）に再開された。〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/>〉

- ・春木一郎電子文庫（和田徹氏寄贈図書）
 〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/haruki.htm>〉
- ・原田慶吉電子文庫（和田徹氏寄贈図書）
 〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/harada.htm>〉
- ・栗生武夫電子文庫（和田徹氏寄贈図書）
 〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/kuryu.htm>〉
- ・いろいろ電子文庫
 〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/iroiro.htm>〉

・梅雨空文庫

〈<http://tosyokan.my.coocan.jp/tuyuzora.htm>〉

(令和 6 (2024) 年 6 月 7 日追加)

* 「西村稔先生 (1947～2019) 年譜・著作目録 (阪本尚文編) (初版) (2020 (令和2) 年4月現在)」 ⇒爾後逐次改訂中 ⇒ (最新版: 令和5 (2023) 年11月現在第8稿掲載)

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nishimura001.pdf>〉

(註) 本著作目録は、阪本尚文編『Aún aprendo それでもまだ学ぶぞ——西村稔先生追悼集』 (私家版、2020 (令和2) 年2月28日刊 (福島大学学術機関情報リポジトリ所収 〈<http://hdl.handle.net/10270/5154>〉)) に収録した「西村稔先生年譜・著作目録」に逐次修正を加えつつあるものである。

【関連 HP】

(令和 3 年 11 月 15 日全面差替、同 4 年 4 月 1 日、7 月 2 日、同 5 (2023) 年 5 月 22 日、同 6 (2024) 年 1 月 1 日各一部修正)

- ・法制史学会: <<https://www.jalha.org/>>
- ・国立国会図書館: <<https://www.ndl.go.jp/>>
- ・国立国会図書館デジタルコレクション <<https://dl.ndl.go.jp/>>
- ・国立国会図書館個人向けデジタル化資料送信サービス (個人送信) (令和 4 (2022) 年 5 月 19 日開始)
<https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital_transmission/individuals_index.html>
- ・ (下記: 令和 6 (2024) 年 1 月 1 日追加)
<https://www.ndl.go.jp/jp/news/fy2022/221202_01.html>
「ホーム>新着情報>ニュース> 「国立国会図書館デジタルコレクション」をリニューアルします (令和 4 年 12 月 21 日)
「2022 年 12 月 2 日「国立国会図書館デジタルコレクション」をリニューアルします (令和 4 年 12 月 21 日)」⇒
「国立国会図書館は、令和 4 年 12 月 21 日に、国立国会図書館デジタルコレクションをリニューアルします。リニューアルにより、全文検索可能なデジタル化資料が増加するとともに、閲覧画面が改善されます。詳しくはプレスリリースをご覧ください。」
- ・ (下記: 令和 6 (2024) 年 1 月 1 日追加)
「2024 年 1 月 5 日 新「国立国会図書館サーチ」を公開しました」⇒
「国立国会図書館は、従来のウェブサービス「国立国会図書館検索・申込オンラインサービス (国立国会図書館オンライン)」及び「国立国会図書館サーチ」を統合・リニューアルし、令和 6 年 1 月 5 日 (金) から、新「国立国会図書館サーチ」としてサービスを開始しました。」
<https://www.ndl.go.jp/jp/news/fy2023/240105_01.html>
- ・国立国会図書館次世代デジタルライブラリー
<<https://lab.ndl.go.jp/service/tsugidigi/>>
- ・CiNii: <<https://ci.nii.ac.jp/>> ⇒ <<https://cir.nii.ac.jp/>> (【[2022] 4/18 更新】CiNii Articles の CiNii Research への統合について)、<<https://ci.nii.ac.jp/books/>>
- ・朝日新聞クロスサーチ (令和 4 (2022) 年春「聞蔵Ⅱビジュアル」を全面リニューアル)
<<http://www.asahi.com/information/db/2for1.html>>
- ・ヨミダス歴史館
<<https://database.yomiuri.co.jp/about/rekishikan/>>
- ・毎索 (マイサク)
<<http://xn--https-ft8kv51h//mainichi.jp/contents/edu/maisaku/>>
- ・雑誌記事索引集成データベース「ざっさくプラス」(令和 5 (2023) 年 1 月 26 日追加)
<<http://info.zassaku-plus.com/>>

〈 https://zassaku-plus.com/service/login?return_url=https%3A%2F%2Fzassaku-plus.com%2F〉

- ・ 京都大学 〈<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/>〉
- ・ 京都大学大学文書館 〈<http://kua1.archives.kyoto-u.ac.jp/ja/>〉
- ・ 京都大学大学文書館「教員履歴データベース（京都大学歴代総長・教授・助教授履歴検索システム—対象: 1949年以前の在職者〔旧制〕—）」参照。

〈<https://kensaku.kua1.archives.kyoto-u.ac.jp/rireki/>〉

「千賀鶴太郎」

〈<https://kensaku.kua1.archives.kyoto-u.ac.jp/rireki/?c=detail&id=000508>〉

（更新日: 2016/8/31、システム管理番号 000508）

「春木一郎」

〈<https://kensaku.kua1.archives.kyoto-u.ac.jp/rireki/?c=detail&id=000766>〉

（更新日: 2016/8/31、システム管理番号 000766）

「田中周友」

〈<https://kensaku.kua1.archives.kyoto-u.ac.jp/rireki/?c=detail&id=000562>〉

（更新日: 2016/8/31、システム管理番号 000562）

十三訂稿はしがき

令和 6 (2024) 年 5 月 26 日 (日) 法制史学会第 75 回総会 (於阪大) における〔ミニ・シンポジウム 2〕「日本における法史研究の歴史 (2) : 1920-1945/50 年」中で、宮坂渉教授「戦間期から戦時期にかけての古代ローマ法研究——田中周友と原田慶吉」なる報告がなされたことから、「2 著作目録」に「(19) 田中周友博士関連報告」を新設追加し、一、二言及した。また、全体にわたって一部補正した。

〈<https://www.jalha.org/wordpress/wp-content/uploads/2024/03/ca5c17ada0f4efae565d7de5659ff172.pdf>〉、〈<https://www.jalha.org/soukai2/>〉

令和 6 (2024) 年 6 月 7 日

編 者 謹 誌

十二訂稿はしがき

今般「上山安敏先生略年譜・著作目録 (六訂稿)」を作成するに併せて、先の十一訂稿に一部補正を加え、十二訂稿を作成しました。今後とも何卒よろしく御指導の程お願い申し上げます。なお、今回田中周友博士の冠句の件について岩浅武久先生 (御筆名: 浅田邦生氏) より再度御懇篤な御示教に与りました。厚く御礼申し上げます。

令和 6 (2024) 年 1 月 1 日

編 者 謹 誌

(『CD 版 上山安敏先生・柴田光蔵先生・西村稔先生・宮崎道三郎博士・池辺義象氏・小林宏先生・千賀鶴太郎博士・戸水寛人博士略年譜・著作目録 附録: 「日本ローマ法・法制史学者等略年譜・著作目録・追悼辞」掲載資料抄 (追補) 中田薫博士・瀧川政次郎博士・三浦周行博士・牧健二博士各関係資料抄 一ローマ法・法制史学者著作目録選 (第十六輯) 一』(CD 版、令和 6 (2024) 年 1 月 1 日刊) 中の「上山安敏先生略年譜・著作目録 (六訂版) 一上山安敏先生追悼 II 一」に「附属参考資料 2」として収録。)

十一訂稿はしがき

田中周友博士の「ローマ法」での後継者であられた柴田光蔵先生（1937～2022）には、令和4（2022）年11月8日（火）京都にて逝去された。85歳。謹んで御冥福をお祈りいたします

ここに十訂稿を一部修正して十一訂稿としました。今後とも何卒よろしく御指導の程お願い申し上げます。

令和5（2023）年5月22日

編者謹誌

十訂稿はしがき

九訂稿を一部修正して十訂稿としました。今後とも何卒よろしく御指導の程お願い申し上げます。

令和4（2022）年7月3日

編者謹誌

九訂稿はしがき

八訂稿を一部修正して九訂稿としました。今後とも何卒よろしく御指導の程お願い申し上げます。

令和4（2022）年4月1日

編者謹誌

（『CD版 宮崎道三郎博士・小林宏先生・西村稔先生・高橋由利子先生略年譜・著作目録—【参考篇】【附篇】—ローマ法・法制史学者著作目録選（第十五輯）—』（令和4（2022）年4月1日刊）に収録。）

八訂稿はしがき

先の「七訂稿はしがき」で述べたように、田中周友博士の御高弟であられた上山安敏先生には、昨令和3（2021）年10月28日（木）長逝された。謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

今般『CD版：上山安敏先生略年譜・著作目録（五訂版）—上山安敏先生追悼—』併載：【附属参考資料1】上山安敏先生エッセイ集（1964～2004）【附属参考資料2】田中周友博士略年譜・著作目録（八訂稿）—ローマ法・法制史学者著作目録選（第十四輯）—』（令和4（2022）年2月1日刊）を作成するに当たり、以前発行の『上山安敏先生略年譜・著作目録（三訂版）・（完成稿）—卒壽記念—ローマ法・法制史学者著作目録選（第十一輯）—』併載【附属参考資料】田中周友博士略年譜・著作目録（五訂版（五訂稿））（平成27年5月31日作成）』（冊子版、平成27（2015）年7月31日刊）に倣い、併せ【附属参考資料】として「田中周友博士略年譜・著作目録」の最新版（八訂稿）をも収載しておくこととした。

本稿は、前にも誌したように、かつて上山先生に親しく御指導いただいたものである。先生御生前の御高教に厚く御礼申し上げます。

令和4（2022）年2月1日

編者謹誌

七訂稿はしがき

田中周友博士の後継者であられた上山安敏先生には、去る令和3（2021）年10月28日（木）忽焉として逝かれた。96歳。謹んで御冥福をお祈りいたします。

本稿は、「六訂稿はしがき」に誌したように、抑々は上山先生に親しく御指導いただいたものである。このため、急遽本七訂稿を作成した。改めて先生御生前の御厚情に深甚の謝意を表します。

令和3（2021）年11月7日

編者謹誌

六訂稿はしがき

HP「日本のローマ法」に掲載した「田中周友博士（1900～1996）」
〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tanaka2003b.htm>〉は、「著作目録（二訂版〈二訂稿〉）（平成15年10月1日現在）」を基にして、補訂を繰り返し（補訂履歴：平成16年5月27日、平成17年1月1日、2月17日、10月7日、平成18年1月1日、2月10日、5月3日、平成19年8月4日、9月4日、9月9日、12月25日、平成20年2月15日、3月19日、平成21年4月19日、5月1日、5月15日、7月13日、平成22年2月18日、9月13日、10月13日、11月26日、12月3日、平成23年1月21日、3月5日、3月20日、12月18日、平成24年2月27日、6月6日、7月13日、9月6日、9月11日、11月16日、平成25年2月8日、17日、19日、21日、25日、平成26年11月21日、平成27年1月28日、2月8日、平成28年10月15日追加）、最終的には「（最新補訂：平成28年10月15日）」現在で今に至った。

平成18（2006）年10月作成の「三訂版（稿）」との関連については、冒頭註で、「（註）：平成18（2006）年10月1日に、別途、冊子版、CD版で、「田中周友博士著作目録（三訂版（三訂稿）」を作成した（『春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士・武藤智雄教授略年譜・著作目録—日本ローマ法学五先生略年譜・著作目録（三訂版）—ローマ法・法制史学者著作目録選（第七輯）』（平成18年10月1日刊）。しかるに、本稿は、諸般の事情により、平成15年10月1日作成の二訂版を適宜補訂しているものであって、上記三訂版（三訂稿）を基にしているものではないことをお断りしておく。（平成19年12月25日追加）」と記したところである。

その後、平成25（2013）年9月1日に、CD版『春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士・武藤智雄教授・千賀鶴太郎博士・戸水寛人博士・池辺義象氏略年譜・著作目録—日本ローマ法学七先生略年譜・著作目録（新訂版）—ローマ法・法制史学者著作目録選（第10輯）—』（平成25（2013）年9月1日刊。既刊第七輯、第九輯の改訂合体版。ただし冊子版は作成できずCD版のみあり。）中で、田中周友博士については四訂版（稿）を作成したが、これも、HP上には反映できずにいた。

更に、平成27（2015）年5月31日に、『上山安敏先生略年譜・著作目録（三訂版）（完成稿）—卒壽記念—ローマ法・法制史学者著作目録選（第十一輯）（完成稿）—』（CD版：平成27（2015）年5月31日刊。冊子版：同年7月31日刊）を刊行したが、その中で、「附属参考資料」として、「田中周友博士略年譜・著作目録（五訂版（五訂稿）。平成27年5月31日作成）」を作成、併載したものの、これもHP上には反映できなかった。

しかるに、今般、諸般の事情により、「日本のローマ法」、「法制史学者著作目録選（WEB版）」掲載のものうちテキスト版でアップしたままになっているものを、他との整合性をとるためすべてPDF版と差し替えることにしたことから、田中周友博士分についても、新たに上記五訂版（五訂稿）を基にして六訂稿を作成し、PDF版で掲載することとした。

すなわち、本六訂稿は、平成27（2015）年5月作成の五訂稿以降に気がついたものを中心に多少の改訂を加えたものである。追加分については追加年月日を記載し、五訂稿以降のものであることを明示した。国立国会図書館のデジタル資料についてはその後名称変

更等がなされているが、諸々の制約で本稿ではそれを反映させていないことをお断りしておく。いずれ修正の予定でいる。

前回改訂後二年余の歳月を閲し、本来ならば更に精査すべきであったが、今回は急に思い立って差し替えたため、ほとんどなにもできなかったことを甚だ遺憾に思う。出来るだけ早く七訂稿作成に向けて努力したいと考えているので、御示教いただければ幸いである。

抑々本稿作成の発端は、これも、五十年もの昔に田中周友博士御高弟の上山安敏先生から賜った御示教と御指導に拠る。改めてここに先生に深厚の謝意を表すものである。

平成 29 (2017) 年 11 月 23 日

編 者 謹 誌

(旧版各はしがき)

五訂版に当たりて

(五訂版: 『上山安敏先生略年譜・著作目録 (三訂版) (完成稿) 一卒壽記念一 一ローマ法・法制史学者著作目録選 (第十一輯) (完成稿) 一』 (CD 版: 平成 27 年 5 月 31 日刊。冊子版: 同年 7 月 31 日刊) 附属参考資料)

『上山安敏先生略年譜・著作目録 (三訂版) (完成稿) 一卒壽記念一 一ローマ法・法制史学者著作目録選 (第十一輯) (完成稿) 一』 (平成 27 年 5 月 31 日刊) 刊行に当たり、附属参考資料として上山安敏先生の師である田中周友博士の著作目録をも収録するため、平成 27 (2015) 年 5 月末現在改訂の五訂版 (五訂稿) を作成した。ただし、今回も僅かに人名索引を付するに止まり、事項索引、書名・論文索引等は作り得なかったことをお詫び申し上げるものである。

(平成 27 (2015) 年 5 月 31 日誌)

四訂版に当たりて

(四訂版: 『春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士・武藤智雄教授・千賀鶴太郎博士・戸水寛人博士・池辺義象氏略年譜・著作目録—日本ローマ法学七先生略年譜・著作目録 (新訂版) 一 一ローマ法・法制史学者著作目録選 (第十輯) 一』 (平成 25 (2013) 年 9 月 1 日刊))

四訂版 (四訂稿) 発行に当たり、田中周友博士学位論文関係、冠句関係、田中家文書関

係及び田中周友博士御旧邸をめぐる夏目漱石関係の記載を増補するとともに、全体にわたり更に補正した。

田中博士学位論文については、光栄にも今回初めて拝見する機会を得た。冠句関係については、平成 22 (2010) 年秋以降岩浅武久先生より貴重な御示教を賜わった。厚く御礼申し上げるものである。

なお、改訂版 (改訂稿) で追加した「田中周友博士出題試験問題 (戦後)」は、事情あってその後の二訂版 (二訂稿) 及び三訂版 (三訂稿) では割愛したが、今回再掲した。

(平成 25 (2013) 年 9 月 1 日誌)

三訂版に当たりて

(三訂版: 『春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士・武藤智雄教授 略年譜・著作目録—日本ローマ法学五先生略年譜・著作目録 (三訂版)—ローマ法・法制史学者著作目録選 (第七輯)—』〈平成 18 (2006) 年 10 月 1 日刊〉)

三訂版 (三訂稿) 発行に当たり、更に補正した。

(平成 18 (2006) 年 10 月 1 日誌)

二訂版に当たりて

(二訂版: 『春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士略年譜・著作目録—日本ローマ法学四先生略年譜・著作目録 (二訂版)—ローマ法・法制史学者著作目録選 (第二輯)—』〈平成 15 (2003) 年 10 月 1 日刊〉)

二訂版 (二訂稿) 発行に当たり、更に補正した。但し、上記「田中周友博士出題試験問題 (戦後)」は省略した。

(平成 15 (2003) 年 10 月 1 日誌)

改訂版に当たりて

(改訂版: 『日本ローマ法学四先生略年譜・著作目録 (初稿) [改訂版] 春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士』 (平成 10 (1998) 年 3 月 1 日刊))

改訂版（改訂稿）発行に当たり、二、三補訂するとともに、「田中周友博士出題試験問題（戦後）」を付した。

（平成 10（1998）年 3 月 1 日誌）

はじめに（初版）

（初版：『日本ローマ法学四先生略年譜・著作目録（初稿） 春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士』（平成 9（1997）年 3 月 27 日刊）

京都大学名誉教授田中周友博士（かねとも、1900～1996）は、昨平成 8（1996）年 11 月 14 日京都にて逝去された。享年 96。御生年は、奇しくも小早川欣吾先生（1900～1944）と同年の明治 33（1900）年であられる。

博士御永逝後、上山安敏先生の御指導を仰いで、既刊『栗生武夫先生・船田享二博士・小早川欣吾先生著作等目録稿（三訂版）』（平成 8 年 2 月 1 日刊）に倣い、「田中周友博士略年譜・著作目録（初稿）」を作成することとした。

田中博士のそれについては、既に、博士御自身の手により、法学論叢第 73 巻第 5・6 号（昭和 38 年 9 月刊）及び甲南法学第 11 巻第 2・3 合併号（昭和 45 年 9 月刊）中に詳細にまとめられているが、そのうち著作目録については、発表年月が省略されていていささか参照が不便なことに加え、若干の遺漏及びその後発表のものもあるため、今回改めて調査し直して作成した。

但し、現在、諸般の事情により、文献渉猟が難しいため、殆ど原文に当たり得ず、極めて不十分な改訂に終わったことをお詫びせざるを得ない。識者の御教示を得て、他日より正確なものを作成できることを願っている。宜しく御指導の程をお願いいたしたい。

今回もまた、上山安敏先生には格別の御高配を賜った。ここに深甚の謝意を表する次第である。

なお、既刊目録につき識者より御指摘を戴いたことに加え、今後の修正の便をも考慮し、従来 of 如き縦書から横書に変更したことをお断りしておく。

平成 9（1997）年 3 月 27 日

編 者 謹 誌

1 略年譜

(追記1) 現在では下記参照。(平成29(2017)年11月22日追加)

・京都大学大学文書館「教員履歴データベース(京都大学歴代総長・教授・助教授履歴検索システム—対象:1949年以前の在職者〔旧制〕—)」参照。

〈<https://kensaku.kua1.archives.kyoto-u.ac.jp/rireki/>〉

「田中周友」

〈<https://kensaku.kua1.archives.kyoto-u.ac.jp/rireki/?c=detail&id=000562>〉

(更新日:2016/8/31、システム管理番号000562)

(追記2) ウィキペディア(令和3(2021)年12月8日追加)

〈<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%94%B0%E4%B8%AD%E5%91%A8%E5%8F%8B>〉

明治33(1900)年9月4日 京都市に生れる

(夏目漱石「京に着ける夕」(『大阪朝日新聞』明治40年4月9~11日)の舞台は、田中周友先生御旧宅(京都市左京区下鴨森本町24)の由、『毎日新聞』昭和62(1987)年10月29日夕刊(大阪本社版)参照。平成14(2002)年11月29日、田中先生御令室田中康子様、上山安敏先生、平田公夫先生の御教示による。「明治40年3月末〔夏目〕漱石京洛滞在地覚書—田中周友先生御旧邸をめぐって—」『ローマ法・法制史学者著作目録選』(第四輯)(冊子版、平成16年3月1日刊)77~80頁参照。) ¹

大正7(1918)年3月 京都府立第一中学校卒業

同 年9月 第三高等学校入学

大正10(1921)年3月 第三高等学校第一部丙類(独法)卒業

同 年4月 京都帝国大学法学部入学

大正11(1922)年 帝国学士院子爵夫人末松生子羅馬法奨励奨学品受品

大正13(1924)年3月 京都帝国大学法学部独逸法律学科卒業

同 年4月 京都帝国大学法学部助手(同年6月まで)

同 年6月 大学院入学(特選給費学生を命ぜらる、大正15年1月まで)

同 年 帝国学士院藤田男爵奨学費羅馬法学奨学費受費

大正14(1925)年 帝国学士院藤田男爵奨学費羅馬法学奨学費受費

同 年10月 羅馬法研究のため独逸、仏蘭西、伊太利へ満3年間文部省在外研究員として出張を命ぜらる

¹ 後掲「2(17)田中周友博士御旧邸をめぐる夏目漱石関係」に、経薫「夏目漱石の明治40年3月末京洛滞在地について—田中周友先生御旧邸をめぐって—」を再掲した(平成25年8月27日一部補正)。

〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/soseki001.pdf>〉

(参考)「田中周友先生御旧邸と夏目漱石滞在関係『毎日新聞』各版記事比較対照表」

〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/mainichi871029.pdf>〉(平成25年4月22日追加)

(平成27年5月31日追加)後掲「2(17)田中周友博士御旧邸をめぐる夏目漱石関係」参照。

大正 15 (1926) 年 1 月 出発
同 年同月 京都帝国大学助教授、高等官七等、従七位
昭和 4 (1929) 年 3 月 亜米利加合衆国を経て帰国
同 年同月 羅馬法講座担任
昭和 7 (1932) 年 3 月 仏蘭西法第一講座分担
昭和 8 (1933) 年 3 月 京都帝国大学法学部教授、高等官四等、羅馬法講座担任、仏
蘭西法第一講座分担 (13 年まで)
同 年 9 月 独逸法第二講座分担 (9 年 3 月まで)
昭和 10 (1935) 年 4 月 満洲国及び中華民国へ出発
同 年 5 月 帰国
昭和 12 (1937) 年 3 月 西洋法制史講座兼任 (西本穎助教授 (1904~1982) 在外研
究中、14 年 3 月まで)
昭和 13 (1938) 年 3 月 仏蘭西法第二講座分担 (19 年 9 月まで)
同 年 10 月 高等官二等、正五位
昭和 14 (1939) 年 6 月 勲四等
昭和 15 (1940) 年 6 月 京都帝国大学評議員 (2 年間)
同 年 11 月 中華民国へ出張
昭和 16 (1941) 年 1 月 帰国
昭和 17 (1942) 年 2 月 満洲国へ出張
同 年 3 月 帰国
昭和 18 (1943) 年 3 月 高等官一等
同 年 5 月 従四位、勳三等
昭和 19 (1944) 年 9 月 法学博士の学位を京都帝国大学より受領 (9 月 12 日、題目、
古代庇護法史研究)
同 年同月 仏蘭西法第一講座分担
昭和 20 (1945) 年 11 月 依願免官
昭和 21 (1946) 年 1 月 正四位
同 年 9 月~昭和 24 年 3 月末 私立福知山工業専門学校長² (昭和 21 年 9 月 23
日第一回出講。私立福知山工業専門学校 (成美学苑、現京都創成大学、京都短期大
学)。『成美学苑百年の歩み』 (昭和 45 年 10 月 21 日刊、240 頁) 等参照 (その後福
知山公立大学になる。)。同校にて赤井節教授 (1926~1966) を教える。)(平成 22
年 12 月 15 日、令和 3 年 12 月 14 日各修正)
昭和 22 (1947) 年 3 月 京都帝国大学法学部専任講師、西洋法制史講座担任

² 私立福知山工業専門学校校長時代のことについて、田中周友「久佐大人の思い出」『文藝塔』第 29 巻第 9 号 (太田久佐太郎: 1891~1955、通巻第 322 号、昭和 30 年 9 月 5 日刊) 8~9 頁、同「久佐太郎大人とわたくし」『文藝塔』第 40 巻第 8 号 (奥付では第 41 巻第 8 号、通巻第〇号、昭和 41 年 8 月 5 日刊) 6~7 頁、同「福知山から鹿ヶ谷へ—久佐太郎さんの思い出から—」『文藝塔』第 44 巻第 10 号 (「文芸塔 500 号に寄せて」の一つ。通巻第 500 号、昭和 45 年 10 月 5 日刊) 12~14 頁各参照。(平成 22 年 12 月 15 日追加)

- 昭和 23 (1948) 年 5 月 京都大学法学部教授、西洋法制史講座担任、ドイツ法講座
分担 (24 年 3 月まで)
- 同 年 6 月 ローマ法講座兼担
- 昭和 25 (1950) 年 3 月 ローマ法講座担任西洋法制史講座兼担フランス法第一講座
分担
- 同 年 9 月 京都大学法学部長 (2 年間)
- 昭和 26 (1951) 年 1 月 日本学術会議第二期会員 (第二部、3 年間、昭和 26 年 1 月
20 日～29 年 1 月 19 日)
- 同 年同月 琉球大学開学式に日本代表として参列のため沖縄へ出張
- 同 年 2 月 帰国
- 同 年 3 月 京都文化院 (新村出院長) より著書世界法史概説に対して京都文化
院賞受賞
- 同 年 10 月 法制史学会理事 (昭和 38 年迄) (法制史学会 HP 中「法制史学
会の歩み」参照。〈<http://www.jalha.org/>〉⇒〈<https://www.jalha.org/history/>〉)
- 昭和 27 (1952) 年 5 月 文部省学術奨励審議会科学研究費等分科審議会委員 (2 年間)
- 昭和 28 (1953) 年 7 月 京都大学西洋法史研究会設立
- 同 年 12 月 京都大学学生部長 (30 年 9 月まで)
- 昭和 29 (1954) 年 9 月 第一回近畿地区大学体育大会委員長
- 同 年 12 月 大学基準協会専門教育委員会委員
- 昭和 30 (1955) 年 1 月 財団法人京都日伊協会理事 (その後常務理事)
- 同 年 4 月 大学基準協会学生生活委員会委員
- 昭和 31 (1956) 年 11 月 京都大学分校 (教養部) 教授併任 (1 年間)
- 昭和 32 (1957) 年 1 月 日本学術会議第四期会員 (第二部、3 年間、32 年 1 月 20
日～35 年 1 月 19 日)
- 同 年 7 月 京都大学附属図書館長 (3 年間)
- 同 年同月 文部省学術奨励審議会学術文献総合目録分科審議会委員 (38 年 7
月まで)
- 昭和 33 (1958) 年 4 月 京都図書館協会長 (37 年 5 月まで)
- 同 年同月 比較法学会理事
- 同 年 12 月 沖縄へ出張し、琉球大学にて講演
- 同 年同月 帰国
- 昭和 34 (1959) 年 3 月 財団法人日独文化研究所理事
- 昭和 35 (1960) 年 1 月 日本学術会議第五期会員 (第二部、3 年間、35 年 1 月 20
日～38 年 1 月 19 日)
- 同 年同月 甲南大学法学部開設準備委員
- 同 年 4 月 民主教育協会近畿支部理事
- 同 年 6 月 京都府総合資料館開設委員
- 同 年同月 京都大学アメリカ研究所長 (38 年 7 月まで)
- 同 年 7 月 京都大学附属図書館長再任 (3 年間)

昭和 36 (1961) 年 12 月 全国大学教授連合近畿支部理事兼監事

昭和 38 (1963) 年 1 月 日本学術会議第六期会員 (第二部、3 年間、38 年 1 月 20 日～41 年 1 月 19 日)

同 年 3 月 文部省学術奨励審議会科学研究費等分科審議会委員 (2 年間)

同 年 4 月 アメリカ合衆国及びカナダへ出張し、大学図書館研究所を視察

同 年 7 月 帰国

同 年 9 月 定年退官

同 年同月 京都大学名誉教授

同 年同月 甲南大学法学部教授

昭和 41 (1966) 年 1 月 日本学術会議第七期会員 (第二部、3 年間、41 年 1 月 20 日～44 年 1 月 19 日)

昭和 44 (1969) 年 4 月 甲南大学大学院において法史学特殊講義及び同演習を担当

同 年 10 月 京都市都市提携協議会ボストン委員会委員

同 年 11 月 ドキュメンテーション国際会議組織委員会委員

昭和 46 (1971) 年 1 月 勳二等旭日重光章

同 年 3 月 甲南大学定年退職

昭和 48 (1973) 年 4 月 京都産業大学法学部教授

昭和 55 (1980) 年 3 月 京都産業大学退職

昭和 56 (1981) 年 4 月 名城大学大学院法学研究科講師 (客員教授?、西洋法史) (『名城法学』第 31 卷第 2 号 (昭和 57 年 3 月 1 日刊) 108 頁に拠る。)

平成 8 (1996) 年 11 月 14 日 逝去

同 年同月同日 従三位

(本略年譜は、下記「2 著作目録 (17) 田中周友博士関連著作」の他、上山安敏先生の御教示に拠った。)

(参考)

・田中周友博士関係写真 (平成 27 年 5 月 23 日追加)

〈https://www.google.co.jp/search?q=%E7%94%B0%E4%B8%AD%E5%91%A8%E5%8F%8B&hl=ja&rlz=1T4KMOH_jaJP552JP552&tbm=isch&tbo=u&source=univ&sa=X&ei=XLhfVabAB9fr8AX4rYHYCQ&ved=0CCkQsAQ&biw=1301&bih=582〉

・田中周友博士写真 (平成 29 年 11 月 22 日追加)

〈<https://kensaku.kua1.archives.kyoto-u.ac.jp/rireki/?c=detail&id=000562>〉

・法制史学会 HP (令和 4 (2022) 年 7 月 3 日追加)

〈<https://www.jalha.org/history/>〉

2 著作目録

(1) 著書・訳書

昭和 19 (1944) 年

- ・『古代庇護法史研究』 学位論文 (昭和 19 (1944) 年 9 月 12 日学位授与、未公刊)
- ・『法律パピールス学の諸問題』 同参考論文 (未公刊)

[参考 1: 田中周友博士学位論文関係]

・上山安敏 (1925~2021)・高田篤「対談「内なるコロニー」と「外なるコロニー」アスコナとエルサレム 知が会おう場」『文明と哲学 4』((財)日独文化研究所、平成 24 年 6 月 30 日刊。こぶし書房発売) 6~31 頁 (田中周友博士関連: 6 頁) (平成 24 年 9 月 6 日追加) <<http://www.nichidokubunka.or.jp/>>

[参考 2: 田中周友博士学位論文関係] (平成 25 年 2 月 17 日追加)

(平成 25 (2013) 年 2 月 16 日午前閲覧済)

所蔵場所: 国立国会図書館関西館総合閲覧室 ⇒同東京本館に取り寄せ (国立国会図書館 HP「田中周友」で検索)

「49 古代庇護法史研究 田中周友 [著]. UT51-法 24-9 全館の所蔵関西: 総合閲覧室 (1/1)

資料種別 博士論文 請求記号 UT51-法 24-9

タイトル 古代庇護法史研究 / 責任表示 田中周友 [著].

形態/付属資料 冊. 注記 博士論文. 学位の種類 法学博士.

授与大学名 京都帝国大学. 報告番号 [報告番号不明]. 授与年月日 昭和 19 年 9 月 12 日.

個人著者標目 田中、周友. NDLC UT51 国名コード ja 書誌 ID 000010618532 」

(学位論文の形態)

『法学論叢』、『春木[一郎]先生還暦祝賀論文集』及び『齋藤[常三郎]博士還暦記念 法と裁判』 所載論文の抜刷を、『古代庇護法史研究』、『参考論文』『法律パピールス学の諸問題』の二冊に収録し、製本したものである。ただし、『古代庇護法史研究』は第一部~第四部、『法律パピールス学の諸問題』は第一~第六に分けて、それぞれ章名 (一部既発表論文表題と異同あり。)を記した自筆の中扉をほどこすなどしているが、各冊とも通頁は付されず、序文、目次、索引、奥付等の記載も存在しない。なお、『法学論叢』は、現在「ウエストロー・ジャパン」に収録されている。

<<http://www.westlawjapan.com/company/pressrelease/2009/1029.html>>

<<http://www.westlawjapan.com/>>

『古代庇護法史研究』

第一部 古代ギリシアに於ける庇護制度

古代ギリシアに於ける庇護制度——古代庇護法史研究の一として——

[『法学論叢』第 49 卷第 1 号（昭和 18 年 7 月）67～129 頁]

第二部 AD STATUAS CONFUGERE

AD STATUAS CONFUGERE の研究——ローマ帝政時代にあらはれたる庇護制度の一として——

[『法学論叢』第 48 卷第 1 号（昭和 18 年 1 月）272～321 頁]

第三部 ユスティニアヌス帝勅法彙纂に於ける庇護制度

ユ帝勅法彙纂を中心とするアジールの制度

[『齋藤[常三郎]博士還暦記念 法と裁判』（有斐閣、昭和 17 年 12 月 10 日刊）591～625 頁。齋藤常三郎：1878～1951]

第四部 ユスチニアヌス帝新勅法の庇護制度

儒帝新勅法に於ける Asyl 制度

[『法学論叢』第 43 卷第 5 号（紀元二千六百年記念論文集・昭和 15 年 5 月）323～347 頁]

【参考論文】

『法律パピルス學の諸問題』

「法律パピルス學の諸問題」第一 Constitutio Antoniniana

Constitutio Antoniniana

[『法学論叢』第 28 卷第 1 号（昭和 7 年 7 月）41～69 頁]

「法律パピルス學の諸問題」第二 古代ギリシヤ法に於ける物権公示制度

古代ギリシヤ法に於ける物権公示制度

[『法学論叢』第 32 卷第 2 号（昭和 10 年 2 月）314～350 頁]

「法律パピルス學の諸問題」第三 古代エジプトに於ける不動産登記制度（一）

——パピルス學の研究所産の一として——

古代エジプトに於ける不動産登記制度（一） ——パピルス學の研究所産の一として——

[『法学論叢』第 23 卷第 4 号（昭和 5 年 4 月）1～25 頁]

「法律パピルス學の諸問題」第三] 古代エジプトに於ける不動産登記制度（二・完）

——パピルス學の研究所産の一として——

古代エジプトに於ける不動産登記制度（二・完） ——パピルス學の研究所産の一として——

[『法学論叢』第 24 卷第 2 号 49～75 頁]

「法律パピルス學の諸問題」第四 パピルスの法に見える證書の形式

パピルスの法に見える證書の形式

[『春木[一郎]先生還暦祝賀論文集』(有斐閣、昭和6年1月10日)363-399頁]

「法律パピルス學の諸問題」第五 ギリシヤ法に於ける賣主瑕疵擔保責任

ギリシヤ法に於ける賣主瑕疵擔保責任

[『法学論叢』第32卷第4号(昭和10年4月)1~24頁]

「法律パピルス學の諸問題」第六 ローマ法に於ける消費貸借契約證書の効力に就て

ローマ法に於ける消費貸借契約證書の効力に就て

[『法学論叢』第27卷第4号(昭和7年4月)1~20頁]

(以上)

昭和24(1949)年

・『比較法制史講義』(三和書房、昭和24(1949)年1月刊)(三和書房では未確認。
<<http://ci.nii.ac.jp/books/>>で検索のこと、九大図書館、京大法図書館所蔵)(平成28年10月15日一部修正)

・『法史学第一部 比較法史学(比較法制史)』(三和書房、昭和24(1949)年5月20日刊)(三和書房で確認)(4月1日「序」あり、5月刊、国会図書館所蔵本:9月1日刊)

【書評】HP「音楽的・法的思考blog」2015.1.17

<http://d.hatena.ne.jp/Yusuke_update/20150117/1421494192?_ga=1.252684810.226096597.1422437364>(【書評】:平成27年1月28日追加)

・『法史学第二部 ローマ法史』(三和書房、昭和24(1949)年刊)(三和書房では未確認)(昭和24年5月11日「序」あり、5月刊、国立国会図書館所蔵本:昭和24年9月10日刊)

(追記)同書初版初刷の発行年月日は、発行元でも確認できず、上記のように「序」記載日が「昭和24年5月11日」であるのに、閲覧出来た国立国会図書館その他の所蔵本は「昭和24年9月10日刊」とあって、初刷本はもっと早く出ているのではないかと推測された。しかるに、上山安敏先生御逝去直後の本年11月に思いがけず先生御令室様から他用でもって本書のことで御示教を賜り、先生御所蔵本が「昭和24年5月25日刊」(定価110円)のものであることがわかったことから、ここの記載は、正しくは『法史学第二部 ローマ法史』(三和書房、昭和24(1949)年5月25日刊)となることが判明した。御令室様の御厚意に御礼申し上げます。 (令和3年12月24日追加)

・『法学概論』(有信堂、昭和24(1949)年11月10日刊)

(註1)本輯三訂版までは、「(有信堂でも未確認)(1949(昭和24)年9月「はしがき」あり、名古屋大学法学部図書館「瀧川(幸辰)文庫」所蔵本には「昭和24年11月10日初版発行」とある由」としたが、平成25年7月21日さる識者より初版奥付につき「昭和24年11月1日初版印刷、昭和24年11月10日初版発行、定価上製260円、並製230円」とあるとの御教示に与った。記して謝意を表す。(平成25年7月22日一部補正)

(註2)昭和25年再版「はしがき」には、「このたびの再版に際しては、内容にわたる修正を試みる十分な暇を持ちえなかつたために、若干の訂正を加えまた誤植を正す程度にとどめざるを得なかつた。後日さらに推敲して一步の前進を期したいと思う。一九五〇年

九月」の追加記述がある（引用：昭和 42 年 4 月 1 日発行本による。）。（平成 25 年 2 月 21 日追加）

昭和 25（1950）年

・『世界法史概説』（有信堂、昭和 25（1950）年刊）（有信堂でも未確認）（昭和 25 年 8 月 15 日「序」あり、名大法「瀧川文庫」所蔵本には「9 月 10 日発行」とある由）（平成 21 年 5 月 1 日初版本確認：昭和 25 年 9 月 10 日刊、箱に有信堂による宣伝の帯あり。）

昭和 30（1955）年

・ミシェル・ヴィレー『ローマ法』（ミシェル・ヴィレー（1914～1988）、赤井節（1925～1966）と共訳、文庫クセジュ 188）（白水社、昭和 30（1955）年 12 月 5 日刊）

昭和 43（1968）年

・『新版 法学概論』（有信堂、昭和 43（1968）年 5 月 10 日刊）（上記昭和 24 年刊『法学概論』を改版(?)し、従来の「はしがき」に代えて、新たな「序」を付したもの。末尾に「一九六八年三月 洛北糺の森 朱翠居にて 田 中 周 友」とある。ちなみに、京大法学部の田中博士のゼミ OB 会を「朱翠会」といった由である（例えば、三宅信「ゼミ会便り・田中周友先生と『朱翠会』」『有信会誌』第 24 号（昭和 57 年 3 月刊）参照。）が、御自宅を「朱翠居」と呼んでおられたことがうかがえる。（引用：昭和 44 年 4 月 15 日新版第二刷本による。））（平成 25 年 2 月 21 日追加）

昭和 54（1979）年

・『新版 法学概論』（新有堂、昭和 54（1979）年 1 月 20 日刊）（上記昭和 43（1968）年刊『新版法学概論』（有信堂刊）を B6 版とし、同「序」（ただし、「一九六八年三月」の日付を除いている。）を付したもの）（平成 25 年 2 月 21 日一部修正）

(2) 講義録、出版予告書その他

・京都帝国大学法学部田中周友講述「羅馬法」（京都帝国大学法学部講義、京都・黎明社版）（京都大学法学部図書室所蔵、昭和8（1933）年12月11日付登録印があることから、帰朝後羅馬法講座担任の昭和4～7年度（昭和8年度も入るのか？）の講義録か。）

〈<https://ci.nii.ac.jp/ncid/BB08549754>〉（令和2年2月2日追加）

・[参考] 編者の一人の昭和40年代初めの記憶では、当時刊行されていた「有信堂全書」（有信堂刊）の昭和30年代発行のものの刊行予定広告に田中博士『ローマ法』が出ていたが、これは刊行されなかったようである。

（追記）本件につき、今般本目録八訂稿改訂のため改めて調べてみたところ、例えば有信堂文庫（昭和31、2年頃に「有信堂全書」に名称変更か。）の下記等著作の巻末広告中の「《有信堂文庫》」欄に、「ローマ法 京大教授 田中周友（近刊）」なる近刊予告広告が出ている。

・宮内裕（1914～1968）『社会主義国家の刑法』（有信堂文庫、昭和30年12月25日第1刷発行）

・猪木正道（1914～2012）『国際政治の展開』（有信堂文庫、昭和31年10月25日第1刷発行）

このうち、宮内先生『社会主義国家の刑法』の「序にかえて」中に「中国法については、当時京大法学部助手であった長谷川良一君に詳細な翻訳をしていただいた。」（序6頁）との記述がある。大昔初めて同書を読んだ時吃驚して「長谷川良一君」のことをすぐ上山安敏先生にお聞きした記憶があるが、その後すっかり失念していた。今回再調査してみたところ、長く御指導をいただいている東京外国語大学名誉教授高橋均先生の御示教により、この「長谷川良一君」は、後年「中国語教授法研究」で有名であった早稲田大学文学部教授長谷川良一氏（1926.8.2～2017.3.5）のことであることを知った。長谷川教授の略年譜、著作目録その他については、『同時代としての中国』（早稲田大学アジア太平洋研究センター、平成8（1996）年3月刊。未見。）及び『中国文学研究』第22期（長谷川良一教授古稀記念、早稲田大学中国文学会、平成8（1996）年12月20日刊）に掲載されている。ちなみに、後者の「略年譜」には、「1950年4月 中国法講座開設の要員として京都大学法学部助手となる 1953年3月 同大学を退職」とある。その経緯等詳細は不明であるが、興味深いことなので取り敢えず記載しておく。なお、「日中学院校友会 お知らせ 2017/3/14」〈<http://koyukai.boon.jp/>〉参照。高橋均先生の御厚意に感謝申し上げます。

（令和3年12月25日追加）

(3) 編書

昭和 37 (1962) 年

- ・『法制史文献目録』 (共編) (創文社、昭和 37 (1962) 年 10 月 30 日刊) (編者代表として「序」あり) (法制史学会 HP: <http://www.jalha.org/>)

昭和 44 (1969) 年

- ・『家族関係』 (清水兼男と共編) (建帛社、昭和 44 (1969) 年 9 月 15 日刊) (「第 4 章 相続」を執筆、昭和 47 年 3 月 1 日第 5 版刊)

(清水兼男: 1906~1989?、『石川県史』(現代篇 3) (石川県、昭和 30 年 1 月 30 日刊) 265、266 頁参照。) (平成 21 年 5 月 15 日追加)

昭和 54 (1979) 年

- ・『若き日の思い出 三高大正十年卒業生卒業 57 周年・入学 60 周年記念誌』 (編集代表 田中周友、発行者江草四郎 (1900~1992)) (昭和 54 (1979) 年 2 月 20 日刊。但し奥付けの書名は『思い出の記』、以下『若き日の思い出』として引用)

(4) 論説

(※① (1~4) : 学位論文 (昭和 19 年 9 月 12 日学位授与) 『古代庇護法史研究』所収、
※② (1~6) : 同【参考論文】『法律パピルス學の諸問題』所収。学位論文の詳細については、上記「(1) 著書・訳書 [参考 2: 田中周友博士学位論文関係]」参照。) (平成 25 年 2 月 22 日追加、一部修正)

(『法学論叢』は、現在「ウエストロー・ジャパン」に収録されている。)

〈<http://www.westlawjapan.com/company/pressrelease/2009/1029.html>〉

〈<http://www.westlawjapan.com/>〉 (平成 25 年 6 月 11 日追加)

大正 14 (1925) 年

・ミッタイス「要式口頭契約の由来に就て」(1) ~ (3) 完『法学論叢』第 14 卷第 2、3、5 号 (大正 14.2、3、5。ミッタイス: 1859~1921)

昭和 5 (1930) 年

・※②-3 古代エジプトに於ける不動産登記制度 (1) ~ (2・完) —パピルス學の研究所産の一として—『法学論叢』第 23 卷第 4 号 (昭和 5.4) 1~25 頁; 第 24 卷第 2 号 (昭和 5.8) 49~75 頁

・"パピルス學"の成立『書物礼讃』第 11 号 (昭和 5.7.15) 37~40 頁 (『書物礼讃』: 杉田大学堂書店 (京都市三条通寺町東入) 刊)

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1509709/1/1>〉 (20~22 齣) (令和 5 (2023) 年 9 月 3 日一部補正)

昭和 6 (1931) 年

・※②-4 パピルスの法に見える証書の形式『春木 [一郎] 先生還暦祝賀論文集』(有斐閣、昭和 6 (1931) 年 1 月 10 日刊。春木一郎: 1870~1944) 363~399 頁 (春木先生略歴及び春木先生研究論文目録がそれぞれ巻頭にあり。)

・Exceptio non numeratae pecuniae の研究—主としてユ帝勅法彙纂の規定に基づきて得たる輪郭—『法学論叢』第 26 卷第 2 号 (昭和 6.8)

・法学隆盛時代以後に於けるローマ法の発展『法学論叢』第 26 卷第 5 号 (昭和 6.11)

昭和 7 (1932) 年

・※②-6 ローマ法に於ける消費貸借契約証書の効力に就て『法学論叢』第 27 卷第 4 号 (昭和 7.4) 1~20 頁

・※②-1 Constitutio Antoniniana 『法学論叢』第 28 卷第 1 号 (昭和 7.7) 41~69 頁

昭和 9 (1934) 年

・ユ帝の新勅法の彙纂に就て『法学論叢』第 30 卷第 5 号 (昭和 9.5)

昭和 10 (1935) 年

- ・※②-2 古代ギリシヤ法に於ける物権公示制度『法学論叢』第 32 卷第 2 号 (昭和 10.2) 314～350 頁
- ・※②-5 ギリシヤ法に於ける売主瑕疵担保責任『法学論叢』第 32 卷第 4 号 (昭和 10.4) 1～24 頁

昭和 12 (1937) 年

- ・ローマ法史の端緒序説『法学論叢』第 36 卷第 4 号 (昭和 12.4)

昭和 14 (1939) 年

- ・古代ローマの民会に於ける投票『佐藤 [丑次郎] 教授退職記念 法及政治の諸問題』(有斐閣、昭和 14 (1939) 年 11 月 15 日刊。佐藤丑次郎: 1877～1940)
〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1875717/1/1>〉

昭和 15 (1940) 年

- ・※①-4 儒帝新勅法に於ける Asyl 制度『法学論叢』第 43 卷第 5 号 (紀元二千六百年記念論文集) (昭和 15.5) 323～347 頁

昭和 17 (1942) 年

- ・ローマ帝政時代に於ける居住制限の刑の観念—特に DEPORTATIO に就て—『法学論叢』第 46 卷第 6 号 (昭和 17.6)
- ・※①-3 ユ帝勅法彙纂を中心とするアジールの制度『齋藤 [常三郎] 博士還暦記念 法と裁判』(有斐閣、昭和 17 年 12 月 10 日刊。齋藤常三郎: 1878～1951) 591～625 頁

昭和 18 (1943) 年

- ・※①-2 AD STATUAS CONFUGERE の研究—ローマ帝政時代にあらはれたる庇護制度の一として—『法学論叢』第 48 卷第 1 号 (昭和 18.1) 272～321 頁
- ・古代ローマ・カルタゴ間の通商条約『法学論叢』第 48 卷第 6 号 (昭和 18.6)
- ・※①-1 古代ギリシアに於ける庇護制度—古代庇護法史研究の一として—『法学論叢』第 49 卷第 1 号 (昭和 18.7) 67～129 頁

昭和 23 (1948) 年

- ・オストラキスマス (陶片追放制) 素描—古代の追放制の比較法制的考察第一部—『法と経済』第 100 号 (昭和 23.4)

昭和 27 (1952) 年

- ・現代法学の体系・ドイツ法 末川博監修『現代法学講座』第 3 卷 (法律文化社、昭和 27 年 7 月 5 日刊。末川博: 1892～1977)

昭和 28 (1953) 年

- ・ローマ法学の古典期について『西洋古典学研究』 I (岩波書店、昭和 28 年 7 月刊)
- ・旧約聖書に現われた外国人『末川 [博] 先生還暦記念 民事法の諸問題』 (有斐閣、昭和 28 年 11 月刊。末川博: 1892~1977)

【書評】一柳俊夫 (1925~2007) 『法制史研究 5 (1954) 』 (昭和 30.6.5)

昭和 30 (1955) 年

- ・法史 恒藤恭監修『法学研究入門』 (ミネルヴァ書房、昭和 30 年 5 月 15 日刊。恒藤恭: 1888~1967)

昭和 31 (1956) 年

- ・ローマ法学『法哲学講座 第 2 卷—法思想の歴史的展開 (I) —』 (有斐閣、昭和 31 年 10 月 25 日刊)

【書評】片岡輝夫 (1924~2011) 『法制史研究 8 (1959) 』 (昭和 33.3.30)

昭和 44 (1969) 年

- ・ローマ法における法原則『甲南法学』第 9 巻第 4 号 (昭和 44.?.刊)

昭和 57 (1982) 年

- ・世界法史の体系『甲南法学』第 22 巻第 1-4 合併号 (甲南大学創立 30 周年・法学部創設 20 周年記念号) (昭和 57.3)

【書評】前田正治 (1913~1998) 『法制史研究 33 (1983) 』 (昭和 59 年 3 月 30 日刊)

法制史学会 HP <<http://www.jalha.org/>> 中「電子アーカイブ」参照。

< https://www.jstage.jst.go.jp/article/jalha1951/1983/33/1983_33_273/article/-char/ja/ > (法制史学会 HP の件: 平成 27 年 1 月 28 日追加)

(5) 邦訳

昭和 11 (1936) 年

- ・ 儒帝新勅法邦訳 (1) その第一号 (以下、儒帝新勅法は田中秀央 (1886～1974) との共訳³⁾ 『法学論叢』第 34 卷第 3 号 (昭和 11.3) (儒帝: 483～565)
- ・ 儒帝新勅法邦訳 (2) その第二号 『法学論叢』第 34 卷第 5 号 (昭和 11.5)

昭和 12 (1937) 年

- ・ 儒帝新勅法第三・四・五号邦訳 『法学論叢』第 37 卷第 5 号 (昭和 12.11)

昭和 13 (1938) 年

- ・ 儒帝新勅法第六号及第七号邦訳 『法学論叢』第 38 号第 3 号 (昭和 13.3)
- ・ 儒帝新勅法第八号邦訳 『法学論叢』第 38 号第 5 号 (昭和 13.5)
- ・ 儒帝新勅法第九号乃至第十三号邦訳 『法学論叢』第 39 卷第 3 号 (昭和 13.9)

昭和 14 (1939) 年

- ・ 儒帝新勅法第十四号乃至第十六号邦訳 『法学論叢』第 40 卷第 6 号 (昭和 14.6)
- ・ 儒帝新勅法第十七号邦訳 『法学論叢』第 41 卷第 6 号 (昭和 14.12)

昭和 15 (1940) 年

- ・ 儒帝新勅法第十八号邦訳 『法学論叢』第 42 卷第 6 号 (昭和 15.6)

昭和 16 (1941) 年

- ・ 儒帝新勅法第十九乃至第二十一号邦訳 『法学論叢』第 44 卷第 5 号 (昭和 16.5)
- 【参考】京都大学西洋法史研究会 (雑報 (紹介記事)、「田中記」とある。) 『法学論叢』第 69 卷第 1 号 (昭和 36.1) 137 頁参照。(平成 25 年 7 月 22 日追加)

昭和 31 (1956) 年

- ・ 封建法書 (LIBRI FEUDORUM) 邦訳 (1) ～ (4) (共訳) (京都大学西洋法史研究会訳、同研究会につき、『法学論叢』第 62 卷第 2 号 (昭和 31.6) 172 頁及同第 73 卷第 5・6 号 (昭和 38.9) 222 頁参照) 『法学論叢』第 62 卷第 5 号; 第 63 卷 1、2、3 号 (昭和 31.12; 昭和 32.4、6、8)

【書評】木村尚三郎 (1930～2006) 『法制史研究 9 (1958)』 (昭和 34 年 3 月 30 日刊)

³⁾ 菅原憲二 (1947～)・飯塚一幸 (1958～)・西山伸 (1963～) 『田中秀央 近代西洋学の黎明—『憶い出の記』を中心に』 (京都大学学術出版会、平成 17 年 3 月 25 日刊。田中秀央 (ひでなか) : 1886～1974) (佐伯好郎発田中秀央宛書簡) : 266 頁、(春木一郎発田中秀央、田中周友宛書簡) : 306、307、309～311 頁、(解説) : 346、347 頁 (平成 21 年 7 月 13 日追加、令和元年 5 月 13 日一部補正)

昭和 32 (1957) 年

・SCHWABENSPIEGEL 邦訳 (1) ～ (7) 未完 (上山安敏 (1925～2021)、岩田健次 (1922～1973)、西賢 (1928～)、石部雅亮 (1933～2023) と共訳、但し共訳者は号により不
一定) 『法と政治』第 8 巻第 2、3-4 号; 第 9 巻第 2、3、4 号; 第 10 巻第 2 号; 第 11 巻第
2 号 (昭和 32.6、12; 33.6、9、12; 34.6; 35.6)

昭和 33 (1958) 年

・ユスチニアヌス帝学説彙纂第二〇巻邦訳 (1) ～ (3) (以下「ユスチニアヌス帝学説彙
纂邦訳」は京都大学西洋法史研究会訳) 『法学論叢』第 63 巻 6 号; 第 64 巻 1、2 号 (昭
和 33.2、4、6) (ユスチニアヌス帝: 483～565)
・ユスチニアヌス帝学説彙纂第二一卷邦訳 (1) ～ (6) (同訳) 『法学論叢』第 64 巻第 3、
4、5、6 号; 第 65 巻第 2、3 号 (昭和 33.8、10、12; 昭和 34.2、5、6)

昭和 34 (1959) 年

・ユスチニアヌス帝学説彙纂第二二巻邦訳 (1) ～ (4) (同訳) 『法学論叢』第 65 巻第 4
号; 第 66 巻第 1、2、3 号 (昭和 34.7、10、11、12)
【書評】武藤智雄 (1899～1962) 「学界回顧・1959 年 (法制史〈西洋法制史〉)」
『法律時報』第 31 巻第 13 号 (昭和 34 年 12 月号)

昭和 35 (1960) 年

・ユスチニアヌス帝学説彙纂第二三巻邦訳 (1) ～ (6) (同訳) 『法学論叢』第 66 巻第 4、
6 号; 第 67 巻第 2、4、6 号; 第 68 巻第 2 号 (昭和 35.1、3、5、7、9、11)

昭和 36 (1961) 年

・ユスチニアヌス帝学説彙纂第二四巻邦訳 (1) ～ (6) (同訳) 『法学論叢』第 68 巻第 4
号; 第 69 巻第 2、4、6 号; 第 70 巻 3、5 号 (昭和 36.1、5、7、9、12; 昭和 37.2)

昭和 37 (1962) 年～昭和 39 (1964) 年

・ユスチニアヌス帝学説彙纂第二五巻邦訳 (1) ～ (3) (同訳) 『法学論叢』第 71 巻第 2、
4、6 号 (昭和 37.5、7、9)
・ユスチニアヌス帝学説彙纂第二六巻邦訳 (1) ～ (8) (同訳) 『法学論叢』第 72 巻第 2、
4、6 号; 第 73 巻 4 号; 第 74 巻第 2、4、5・6 号; 第 75 巻第 2 号 (昭和 37.11; 昭和 38.11;
昭和 39.1、2、5)

昭和 39 (1964) 年

・ユスチニアヌス帝学説彙纂第二七巻邦訳 (1) ～ (7) (同訳) 『法学論叢』第 75 巻第 4
号; 第 76 巻第 3、5 号; 第 77 巻第 1、5 号; 第 79 巻第 2、4 号 (昭和 39.7、12; 昭和 40.4、
8; 昭和 41.5、7)

昭和 43 (1968) 年

・ユスチニアヌス帝学説彙纂第二八卷邦訳 (1) ～ (2) (未完) (同訳) 『法学論叢』第 83 卷第 4、6 号 (昭和 43.7、9)

昭和 46 (1971) 年

・ローマ法に於ける法原則の研究 学説彙纂第五十卷第十七章邦訳 『甲南法学』第 11 卷第 4 号 (昭和 46.3.30)

【書評】赤井伸之 (1947～) 『法制史研究 23 (1973)』 (昭和 49 年 3 月 30 日刊)

(6) 書評

昭和 6 (1931) 年

・タウベンシュラーク「パピルス法に於ける奴隷法制」『法学論叢』第 26 巻第 1 号（昭和 6.7。タウベンシュラーク：1881～1958）

昭和 7 (1932) 年

・堀口昇『羅馬元老議院記略』—我国に於けるローマ法に関する最初の文献—『法学論叢』第 28 巻第 1 号（昭和 7.7。堀口昇：? ～?）

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/784384/1/1>〉堀口昇纂訳『羅馬元老議院記略』（克巳堂蔵梓、村上勘兵衛・高橋源助、明治 8（1875）年 6 月 17 日刊）

・春木〔一郎〕博士『儒帝法学撮要重要語纂訳』『法学論叢』第 28 巻第 6 号（昭和 7.12。春木一郎：1870～1944）

（参考）春木一郎『儒帝法学撮要重要語纂訳』（刀江書院、昭和 7 年 10 月 8（⇒16）日刊）（近代デジタルライブラリー〈<http://kindai.ndl.go.jp/>〉にあり。）（平成 25 年 4 月 5 日一部補正）⇒〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1465263/1/1>〉

昭和 10 (1935) 年

・ローマ法大全（CORPUS IURIS CIVILIS）其他の新なる英訳『法学論叢』第 33 巻第 6 号（昭和 10.6）

昭和 12 (1937) 年

・田中秀央・落合太郎編著『ギリシア ラテン引用語辞典』『京都帝国大学新聞』第 273 号（昭和 12.12.20、後、『復刻版京都大学新聞』第 2 巻〈京都大学新聞社、不二出版発売、昭和 44.7.10 刊〉342 頁に再録。田中秀央：1886～1974、落合太郎：1886～1969）

昭和 30 (1955) 年

・一柳俊夫「ホメーロスの詩篇に現われたる古代ギリシアの法律思想に就て」『法制史研究 5（1954）』（昭和 30.6.5。一柳俊夫：1925～2007）

昭和 34 (1959) 年

・古林善祐『古代ギリシア法の研究—法哲学起源論』『法制史研究 9（1958）』（昭和 34.3.30。古林善祐（祐二）：1910～1999）

昭和 39 (1964) 年

・武藤智雄「ローマ法の時代的区分に就て」（『法と政治の諸問題 大阪大学法学部創立十周年記念論文集』、昭和 37 年 3 月 30 日刊）『法制史研究 14（1964）』（昭和 39.11.15。武藤智雄：1899～1962）

(7) 小品集

昭和 23 (1948) 年

- ・母権制の一面・アマゾン女人国『法律文化』第3巻第3・4号^{ママ}合併(昭和23.4.1)
- ・古代の民会と代議制の不存在『法律文化』第3巻第5号(昭和23.5.15)
- ・古代ローマにおける貨幣の成立『法律文化』第3巻第6号(昭和23.6.15)
- ・古代における民衆裁判—ソクラテスの裁判—『法律文化』第3巻第7・8号(昭和23.7.15。
ソクラテス: 前470頃～前399)
- ・古代における国際条約の素描—特にローマの側に重点をおいて—『法律文化』第3巻第9号(昭和23.9.15)
- ・古代における奴隷と労働—特にギリシャに見る—『法律文化』第3巻第10・11・12合併号(昭和23.11.15)

昭和 24 (1949) 年

- ・法学のはじまり『法律文化』第4巻第1号(昭和24.1.15)
- ・旧約聖書に見る親と子との関係—ローマにおける父権を省察しつつ—『法律文化』第4巻第3・4合併号(昭和24.4.15)
- ・旧約聖書にあらわれた労働『法律文化』第4巻第9・10号(昭和24.11.1)

昭和 31 (1956) 年

- ・オストラキスマスと民主政治の発展『歴史教育』(日本書院)第4巻第5号(昭和31.5.1)

昭和 33 (1958) 年

- ・アマゾン女人国とアマゾン河『法学セミナー』第29号(昭和33.8)

昭和 34 (1959) 年

- ・古代ローマの或る日『法学セミナー』第39号(昭和34.6)

昭和 35 (1960) 年

- ・法律と数字『法学セミナー』第48号(昭和35.3)

(8) 追悼文

昭和 8 (1933) 年

・ローマ法学者ボンファンテ教授の永眠『法学論叢』第 29 巻第 4 号 (昭和 8.4。ボンファンテ: 1864~1932)

昭和 30 (1955) 年

・久佐大人の思い出『文藝塔』第 29 巻第 9 号 (久佐大人 ⇒太田久佐太郎: 1891~1955、通巻第 322 号、昭和 30 年 9 月 5 日刊) 8~9 頁 (平成 22 年 12 月 15 日追加)

昭和 38 (1963) 年

・故武藤智雄教授を偲ぶ『法制史研究 13 (1962)』 (昭和 38 年 3 月 30 日刊。武藤智雄: としお、1899~1962)

・アンナ・ベンディクス嬢のこと『瀧川幸辰 文と人』 (瀧川幸辰先生記念会、昭和 38 年 11 月 16 日刊。非売品。) 353~355 頁 (アンナ・ベンディクス嬢の写真: 同書所収佐久間勝「幸辰君との交友」(348~349 頁) <<https://dl.ndl.go.jp/pid/2980285/1/1>> 参照。後、瀧川春雄編『ある生涯 瀧川幸辰一文と人』 (世界思想社、昭和 40 年 11 月 20 日刊) として公刊。アンナ・ベンディクス: 1900~1929 (生没年: 平成 25 年 8 月 6 日追加)、瀧川幸辰: 1891~1962、瀧川春雄: 1918~1979) <<https://dl.ndl.go.jp/pid/2977000/1/1>> (平成 25 年 8 月 6 日一部補正)

昭和 41 (1966) 年

・久佐太郎大人とわたくし『文藝塔』第 40 巻第 8 号 (奥付では第 41 巻第 8 号??、通巻第?? 号、昭和 41 年 8 月 5 日刊。久佐太郎大人 ⇒太田久佐太郎: 1891~1955、) 6~7 頁 (平成 22 年 12 月 15 日追加)

昭和 42 (1967) 年

・赤井節教授を惜しむ『法制史研究 16 (1966)』 (昭和 42 年 3 月 30 日刊。赤井節: 1925~1966)

昭和 45 (1970) 年

・福知山から鹿ヶ谷へ—久佐太郎さんの思い出から—『文藝塔』第 44 巻第 10 号 (「文芸塔 500 号に寄せて」の一つ。通巻第 500 号、昭和 45 年 10 月 5 日刊。久佐太郎 ⇒太田久佐太郎: 1891~1955) 12~14 頁 (平成 22 年 12 月 15 日追加)

昭和 47 (1972) 年

・故町田實秀博士略歴・主要業績『法制史研究 21 (1971)』 (昭和 47 年 3 月 30 日刊。町田實秀: 1898~1971)

昭和 48 (1973) 年

・故三戸壽教授『法制史研究 22 (1972) 』 (昭和 48 年 3 月 30 日刊。三戸壽: たもつ、1908~1971)

昭和 51 (1976) 年

・交遊半世紀を超えて 団体法研究所編『人間・空間・時間 (断章随想篇) 常盤敏太博士喜寿記念論集』 (和広出版株式会社、昭和 51 年 11 月 10 日刊。常盤敏太: 1899~1978)

昭和 54 (1979) 年

・故吉川大二郎君と「三高大正十年会」旗 前掲編書『若き日の思い出』 (昭和 54 年 2 月 20 日刊。吉川大二郎: きっかわ、1901~1978) 102 頁

平成 5 (1993) 年

・「久佐さんとこしえに 福知山と京都の晩年の回想」『冠句集一文芸塔 発刊六十五周年記念』 2~6 頁 (文芸塔社編集部、平成 5 (1993) 年 1 月吉日刊。久佐さん ⇒ 太田久佐太郎: 1891~1955) (令和 6 (2024) 年 1 月 1 日追加)

(9) 外国法

昭和 17 (1942) 年 (平成 22 年 9 月 13 日修正)

- ・ 仏蘭西民法〔Ⅲ〕－〔1〕・財産取得法 (1) (1～44 頁) (昭和 17 年 3 月 28 日刊)
 - ・ 仏蘭西民法〔Ⅲ〕－〔2〕・財産取得法 (2) (45～120 頁) (昭和 17 年 11 月 25 日刊)
- 『現代外国法典叢書』31、35 分担執筆 (有斐閣、昭和 17 年刊)

昭和 31 (1956) 年

- ・ 仏蘭西民法〔Ⅲ〕・財産取得法 (2) 『現代外国法典叢書 (16)』 (復刊版) 分担執筆 (補遺等あり。) (有斐閣、昭和 31 年 9 月 30 日刊)

(10) 辞典項目

昭和 26 (1951) 年

- ・『法学辞典』(分担執筆)(日本評論社、昭和 26 年 11 月 1 日刊)
〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/3030556/1/1>〉

昭和 29 (1954) 年

- ・『世界歴史事典』第 20 卷(分担執筆・ローマ法、ローマ法大全)(平凡社、昭和 29 年 3 月 25 日刊)(『世界歴史事典 25 卷本』(平凡社、昭和 26～30 年刊))

昭和 30 (1955) 年

- ・『世界歴史事典』第 24 卷(史料編 西洋 I)(分担執筆・十二表法(末松謙澄(1855～1920)訳使用)、ウエスパシアヌスの命令権に関する法律(船田享二(1898～1970)訳使用。ウエスパシアヌス: 9～79)、カラカラの市民権附与の勅法、ディオクレティアヌスの最高物価ならびに賃銀報酬法(原田慶吉(1903～1950)訳使用)。カラカラ: 188 頃～217、ディオクレティアヌス: 245 頃～313 頃)(平凡社、昭和 30 年 7 月 20 日刊)(『世界歴史事典 25 卷本』(平凡社、昭和 26～30 年刊。後に、『西洋史料集成』(平凡社、昭和 31 年 1 月 31 日刊)として刊行、更に昭和 55 年に復刊(昭和 55 年 6 月 20 日刊)。)

昭和 31 (1956) 年

- ・『新訂法学辞典』(分担執筆)(日本評論新社、昭和 31 年 6 月 30 日刊)
〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/3030560/1/1>〉
- ・『世界歴史事典』第 9 卷(分担執筆: ローマ法)(平凡社、昭和 31 年 11 月 30 日刊)

昭和 35 (1960) 年

- ・『世界名著大辞典』第 2 卷(分担執筆・原田慶吉(1903～1950)『楔形文字法の研究』)(平凡社、昭和 35 年 4 月 28 日刊)(16 卷本: 第 3 卷、昭和 62 年 6 月 30 日刊)
- ・『民事法学辞典』(分担執筆: ローマ法、コシャーカー(1879～1951)、ゾーム(1841～1917)) (有斐閣、上巻昭和 35 年 6 月 1 日刊、下巻昭和 35 年 12 月 15 日刊; 増補版上巻昭和 39 年 3 月 1 日刊、下巻昭和 39 年 3 月 20 日刊)

昭和 36 (1961) 年

- ・『世界名著大辞典』第 6 卷(分担執筆: 船田享二(1898～1970)『羅馬法』)(平凡社(8 卷本)、昭和 36 年 3 月 25 日刊(16 卷本: 第 12 卷、昭和 62 年 6 月 30 日刊))

(11) その他

昭和 4 (1929) 年

・田中助教授帰朝談 独仏の現状を語る『京都帝国大学新聞』昭和 4 年 4 月 15 日（月、第 98 号）第 1 面（復刻版：『京都大学新聞縮刷版』第 1 巻（京都大学新聞社、昭和 44 年 2 月 10 日刊）439 頁）（平成 22 年 2 月 18 日追加）

昭和 7 (1932) 年

・民事判例研究 17 時効利益の抛棄の効力 昭和 6 年 6 月 4 日大審院第一民事部判決（『民事判例集』第 10 巻第 7 号 33 頁以下）『立命館学叢』第 4 巻第 4 号（立命館大学出版部、昭和 7.12.1）

（参考）『立命館法学総目次・総索引』（平成 25 年 4 月 5 日追加）

（<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/law/lex/somokuji.htm>）

昭和 30 (1955) 年

・京都大学事件（註：戦後のもの）についての参考人発言 第 22 回国会衆議院文教委員会（昭和 30 年 6 月 7 日、火曜日、国会関係ネットによる。同委員会第 14 号）

（<http://kokkai.ndl.go.jp/SENTAKU/syugiin/022/0462/main.html>）

昭和 31 (1956) 年

・法学部父兄懇談会とは『有信会誌』（京都大学法学部同窓会誌）第 3 号（昭和 31.9.27）

昭和 33 (1958) 年

・ある芳名録『学園新聞』第 944 号（昭和 33.9.15、後、『復刻版 京都大学新聞』第 4 巻（昭和 44.10.20 刊）399 頁に再録。）

昭和 35 (1960) 年

・私の選んだ学問・ローマ法『京都大学新聞』第 1045 号（昭和 35.12.12、後、『復刻版 京都大学新聞』第 4 巻 715 頁に再録。）

昭和 36 (1961) 年

・序 京都大学附属図書館編『京都大学附属図書館六十年史』（京都大学附属図書館、昭和 36 年 3 月 30 日刊）（同書背題字も田中博士の筆。）

（http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/60his/0_JYOBUN.html）（アドレスのみ平成 25 年 7 月 22 日追加）

・京都大学西洋法史研究会（雑報（紹介記事）、「田中記」とある。）『法学論叢』第 69 巻第 1 号（昭和 36.1）137 頁（平成 25 年 7 月 22 日追加）

昭和 37 (1962) 年

- ・早急に科学技術基本法を一第 36 回学術会議の成果を踏まえて—『京都大学新聞』第 1105 号 (昭和 37.5.14、後、『復刻版 京都大学新聞』第 5 巻〈昭和 45.3.10 刊〉24 頁に再録。)
- ・京大におけるいわゆる天皇事件あれこれ『有信会誌』第 9 号 (昭和 37.9.25)

昭和 38 (1963) 年

- ・真珠湾被爆記念堂を訪う—昨 1962 年 5 月 30 日竣工の U.S.S.ARIZONA MEMORIAL—『有信会誌』第 10 号 (創刊 10 周年記念、昭和 38.9.20)

昭和 41 (1966) 年

- ・法学科のラテン語教育『ジュリスト』第 343 号 (昭和 41.4.1)

昭和 47 (1972) 年

- ・旧館惜別記念座談会 (末川博 (1892~1977)、小野木常 (1909~1991) 等と座談)『有信会誌』第 18 号 (昭和 47.12.25)

昭和 54 (1979) 年

- ・三高大正 10 年卒業記念会の歴史 編書『若き日の思い出』 (昭和 54 年 12 月 20 日刊) 33 頁 「三高へ」と「三高から」 編書『若き日の思い出』168 頁 終章 1・あとがき 編書『若き日の思い出』325 頁

昭和 63 (1988) 年

- ・京大春秋四十三 京都大学創立九十周年記念協力出版委員会編『京大史記』 (出版協力 六甲出版、昭和 63 年 8 月 20 日刊)

(調査中) (平成 25 年 7 月 22 日追加)

- ・「国立国会図書館のデジタル化資料」〈<http://www.ndl.go.jp/>〉中に下記あり。
「研究抄録. 第三輯 国立国会図書館館内限定閲覧 図書服部報公会編 (服部報公会, 1937) a.. 目次: 羅馬法大全中の新勅法の邦譯…田中秀央 田中周友」 服部報公会:
〈<http://www.hattori-hokokai.or.jp/>〉
- ・『服部報公会研究報告』(第九輯 昭和十六年十一月) (昭和 16 年 11 月 15 日刊) 附録 4 頁 288 齣 (近代デジタルライブラリー⇒国立国会図書館デジタルコレクションにあり。)
〈<http://kindai.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1071905>〉
- ・『服部報公会研究報告』(第十輯 日付なし) (昭和 18 年 2 月 25 日刊) 附録 3 頁 230 齣 (近代デジタルライブラリー⇒国立国会図書館デジタルコレクションにあり。)
〈<http://kindai.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1071906>〉

(12) 報告 (抄)

昭和 7 (1932) 年

- ・電線電柱の瑕疵修理の懈怠に因る火災と電灯会社の責任 (大判民集第 11 卷第 7 号) 京都帝国大学法学部民法座談会 昭和 7 年 10 月 21 日 (『法学論叢』第 28 卷第 6 号雑報)

昭和 25 (1950) 年

- ・世界法史の体系 法制史学会近畿部会第 2 回例会 昭和 25 年 7 月 26 日 於三商会館[マ] (以下は平成 14 (2026) 年 10 月開設の法制史学会の HP <<https://www.jalha.org/>> による。その他は未調査。)

昭和 26 (1951) 年

- ・沖縄雑話 法制史学会近畿部会第 3 回例会 昭和 26 年 2 月 25 日 於二条陣屋

昭和 35 (1960) 年

- ・ローマ法源にみた非合理的要素 法制史学会第 61 回例会 昭和 35 年 6 月 19 日 場所不明

(13) 田中周友博士出題試験問題（戦後）

「田中周友博士出題試験問題（戦後）」については、「改訂版（改訂稿）発行に当たり、二、三補訂するとともに、「田中周友博士出題試験問題（戦後）」を付した。（平成10年3月1日誌）」（改訂版に当たりて）、「二訂版（二訂稿）発行に当たり、更に補正した。但し、上記「田中周友博士出題試験問題（戦後）」は省略した。（平成15年10月1日誌）」（二訂版に当たりて）としてきた。その後、四訂版（四訂稿）で、一部の誤植を訂正するとともに、再掲した。なお、九訂稿61頁所載「（調査中）・田中周友先生出題試験問題」に、令和4（2022）年3月21日栗辻悠先生御教示の関西大学での当時の試験問題を掲載したが、十訂稿（以後同じ）では、ここに転載した。（令和4（2022）年7月3日一部補正）

田中周友博士の戦前期の試験問題については、当時の『法律時報』により、その一端を知ることができるが、諸般の事情により、今は確認できなかった。ここでは、『法学セミナー』によって知り得る戦後のものの一部を記載しておく。

(1) 昭和30（1955）年度（『法学セミナー』昭和31年5月号（No.2）76頁）

（ローマ法）

ローマ法史の民主的傾向

（西洋法制史）

古代東方の法律文化の比較法史的考察

(2) 昭和31（1956）年度（『法学セミナー』昭和32年7月号（No.16）76～77頁）

（ローマ法）

res.

（西洋法制史）

Explain following items in two lines or so.

- ① Asyl ② Boustrophedon ③ Brehon law
- ④ Consolat del mar ⑤ Coutumes de Beauvaisis
- ⑥ Decretum Gratiani ⑦ Ding ⑧ Ehrlosigkeit
- ⑨ Flurzwang ⑩ Gemeines Recht
- ⑪ Geschlechtsvormundschaft ⑫ Gynecocracy
- ⑬ Lex Rhodia de iactu ⑭ Libri Feudorum
- ⑮ Ordonnance ⑯ Pays de droit écrit ⑰ Pravda Russkaya
- ⑱ Stock[werk]eigentum ⑲ Symbol
- ⑳ Svod Zakonov ㉑ Talio ㉒ Verschweigung
- ㉓ Was die Fackel verzehrt ist Fahrnis ㉔ Wergeld
- ㉕ Zunftzwang

(3) 昭和33（1958）年度（『法学セミナー』昭和34年5月号（No.38）88頁）

（ローマ法）

(未掲載)
(西洋法制史)
法典

(4) 昭和 34 (1959) 年度 (『法学セミナー』昭和 35 年 5 月号 (No.50) 81 頁)

(ローマ法)

① 法務官法、② 代理制

(西洋法制史)

① ハムラビ法典、② ゲルマン不動産法

(5) 昭和 35 (1960) 年度 (『法学セミナー』昭和 36 年 6 月号 (No.63) 82 頁)

(ローマ法)

① 法務官法、② 代理、③ 手中物

(西洋法制史)

古代における裁判

(参考) 昭和 38 (1963) 年 9 月 停年退官

(下記、令和 4 (2022) 年 4 月 1 日追加分⇒令和 4 年 7 月 3 日本頁に転載)

・田中周友博士出題試験問題

(追記 1) 田中博士は戦後多くの大学に出講されていたが、関西大学法学部においても西洋法制史を講じておられた時期があった。幸いにも令和 4 (2022) 年 3 月 21 日関西大学法学部准教授粟辻悠先生より当時発行されていた「過去問集」からとして試験問題を御提供いただいたので、以下に掲載しておく。粟辻先生の御厚意に深甚の謝意を表すものである。(令和 4 (2022) 年 4 月 1 日追加)

(追記 2)

・「関西大学法学部・法学研究科」〈https://www.kansai-u.ac.jp/Fc_law/〉中「法学会」を見ると、次の記載がある。

『法学会誌』年 1 回発行 『法学部学内試験問題集』(法学会誌付録)

年 1 回発行(春学期試験前)

春学期・秋学期試験の前年度の過去問および解説を配付します。

(令和 5 (2023) 年 5 月 22 日追加)

* 関西大学法学部試験問題 (田中周友講師分)

昭和 29 年度

第一部

・西洋法制史

古代法の特徴

第二部

- ・西洋法制史

西洋法制史の時代区分について

昭和 30 年度

第一部

- ・西洋法制史

ハンムラビ法（楔形文字法）と古代エジプト法との比較

第二部

- ・西洋法制史

ハンムラビ（楔形文字法）と古代法。

昭和 31 年度

第一部

- ・西洋法制史

古代法の特徴を列挙して説明せよ。

第二部

- ・西洋法制史

古代法の特徴を项目的に分けて列挙せよ。

昭和 32 年度

第一部

- ・西洋法制史

古代社会における民会。

第二部

- ・西洋法制史

エジプト法・楔形文字法・ヘブライ法の三者にあらわれた古代法の特徴を比較せよ。

昭和 33 年度

第一部

- ・西洋法制史

法典について述べよ。

第二部

- ・西洋法制史

法典

昭和 34 年度

第一部

・西洋法制史
世界法史の体系
第二部
・西洋法制史
世界法史の体系

昭和 35 年度

第一部
・西洋法制史
古代東方法の特色
第二部
・西洋法制史
ヘブライ法の特色

(参考: 西洋法制史は昭和 36 年度からは岩田健次助教授 (当時、1922~1973) が担当との由)

(14) 書関係

昭和 33 (1958) 年

- ・書籍の題字 (田中周友博士筆)

『蒼天一久佐太郎遺作冠句集』(発行者 早川桜月、発行所 文芸塔社、昭和 33 (1958) 年 7 月 1 日刊)

〈<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/1357816/1/1>〉(URL のみ: 令和 6 (2024) 年 1 月 1 日追加)

昭和 38 (1963) 年

・昭和 38 年 3 月、久佐太郎句碑 (田中周友博士筆) が京都円山公園に建立除幕。冠句碑、その他市内真浄院、但馬満福寺内にも建立。

〈<http://www.prodigi.jp/~bungeito/about.htm>〉

(太田久佐太郎: 1891~1955、正風冠句研究誌『文芸塔』初代主幹)

岩浅武久「若き日の久佐太郎」: 〈<http://ci.nii.ac.jp/naid/40015495810>〉、

〈<https://apps.v.main.teikyo-u.ac.jp/tosho/tiwaasa20.pdf#search>〉

(平成 21 年 4 月 19 日追加、同 25 年 2 月 8 日一部修正、同年 4 月 5 日一部修正)

(15) 冠句関係

(平成 22 年 11 月 26 日修正追加、同年 12 月 3 日再修正、平成 23 年 1 月 21 日再々修正、同年 3 月 5 日三度修正、同年 3 月 20 日四度修正)

<http://www.prodigi.jp/~bungeito/invite.htm> (文芸塔)

[解説] 本「HP 田中周友博士著作目録 (二訂版)」において、平成 21 年 4 月 19 日に、「(14) 書関係 昭和 38 (1963) 年 昭和 38 年 3 月、久佐太郎句碑 ([補註: 忘れ傘また来る謎の春の酔] 田中周友博士筆) が、京都円山公園に建立除幕。冠句碑、その他市内真浄院、但馬満福寺内にも建立 [補註: ただし、これらは、田中博士の筆ではない。]

<http://www.prodigi.jp/~bungeito/about.htm> (久佐太郎: [補註: 太田稠夫、しげお]、1891～1955、正風冠句研究誌『文芸塔』初代主幹) 岩浅武久「若き日の久佐太郎」:
<https://apps.main.teikyo-u.ac.jp/tosho/tiwaasa20.pdf> (平成 21 年 4 月 19 日追加)」と追記していたところ、平成 22 (2010) 年 11 月 16 日 (火) (その後、同年 11 月 21 日以降本平成 23 (2011) 年 1 月にかけて、逐次追加御教示あり。)、上記「若き日の久佐太郎」の著者岩浅武久 (御筆名: 浅田邦生、1944～) 先生より、同稿は『帝京国際文化』(帝京大学文学部国際文化学科) 第 20 号 (平成 19 年 2 月刊) 15～24 頁所載のものであることを御教示いただくとともに、同先生御執筆に係る (浅田邦生氏＝岩浅武久氏記す) 「文芸塔」に掲載された田中周友関連記事およびその著作」なる貴重な御玉稿 (未公表) 等の御惠投に与った。

田中周友博士 (雅号: 暁人、1900～1996) と太田稠夫氏 (シゲオ、雅号: 久佐太郎、1891.6.2～1955.7.1)、同氏創刊の『文芸塔』及び冠句界関係等については、一般には従来ほとんど知られていなかったことであることから、以下に、今回いただいた御玉稿等に基づき、『文芸塔』及びその他文芸塔社刊行物中の田中周友博士著作と関連記事等を、取り急ぎ抜き書きだけでもしておくこととする。岩浅武久先生の御懇篤な御示教に、深甚の謝意を表する次第である。なお、岩浅先生には、浅田邦生 (御筆名) 「『文芸塔』創刊号を求めて一創刊八十周年の記念に一」『文芸塔』第 81 巻第 7 号 (平成 19 年 7 月号) がある。

田中博士は、戦後まもなくの昭和 20 (1945) 年 12 月 28 日付で京大法学部教授を辞された後、諸般の事情があつて、昭和 21 (1946) 年 9 月から、名目だけのようではあるが、一時期私立福知山工業専門学校長をしておられた (私立福知山工業専門学校: 現学校法人成美学苑、成美大学、当初山陰短期大学、京都短期大学。『成美学苑百年の歩み』(昭和 45 年 10 月 21 日刊、240 頁) <http://uv.seibi-gakuen.ac.jp/>) 等参照 (その後福知山公立大学 <https://www.fukuchiyama.ac.jp/>) に変わっている。)。ちなみに、田中博士は、同校にて赤井節教授 (1926～1966) を教えられている。田中周友「赤井節教授を惜しむ」『法制史研究』(16・1966) (昭和 42 年 3 月 30 日刊) 245～248 頁参照。当時、太田稠夫 (久佐太郎) 氏も、同校の教員をされていたことから、冠句を通じての交誼が始まったとのことである。なお、田中博士の同校長時代のことについては、田中周友「久佐大人の思い出」『文芸塔』第 29 巻第 9 号 (通巻第 322 号、昭和 30 年 9 月 5 日刊) 8～9 頁、同「久佐太郎大人とわたくし」『文芸塔』第 40 巻第 8 号 (奥付では第 41 巻第 8 号、通巻第〇号、昭和 41 年 8 月 5 日刊) 6～7 頁、同「福知山から鹿ヶ谷へ—久佐太郎さんの思い出から—」

『文藝塔』第 44 卷第 10 号（「文芸塔 500 号に寄せて」の一つ。通巻第 500 号、昭和 45 年 10 月 5 日刊）12～14 頁等に詳しい。

その後、田中博士は、昭和 22（1947）年 3 月に京大法学部専任講師に復帰し、次いで、昭和 23（1948）年 5 月 31 日付で、再び同教授になっておられるが、これら及び学制改革に伴う福知山工専側の事情等もあって、昭和 24（1949）年 3 月 31 日に、同校長を辞職されている。他方、久佐太郎氏も、同じ昭和 24 年 3 月に、同校を退職し、同年 7 月 23 日には京都市に転居されている。同氏は、昭和 30（1955）年 7 月 1 日に京都市で逝去された。]

（追記）下記論考は、以前に岩浅武久先生にお教えいただいたものであるが、令和 5（2023）年 9 月再度同先生から御指導を賜った。同先生の御厚情に深く感謝いたしております。

・田中周友「久佐さんとこしえに 福知山と京都の晩年の回想」『冠句集—文芸塔 発刊六十五周年記念』2～6 頁（文芸塔社編集部、平成 5（1993）年 1 月吉日刊。田中家家系、明治 40（1907）年 3 月末夏目漱石（1867～1916）の田中邸滞在の件等にも言及されており、貴重な文献である。）（令和 6（2024）年 1 月 1 日追加）

（冠句関係資料）

〔目 次〕

- *1 『文藝塔』所載田中周友博士著作 ……………55
（参考）『文藝塔』所載田中周友博士関係記事……………56
- *2 文芸塔社刊行物所載田中周友博士著作 ……………58
- *3 『冠句京都』所載田中周友博士著作 ……………59
- *4 『冠句』所載田中周友博士著作……………59
- *5 田中周友博士書関係（上記「(14) 書関係」参照。） ……………59

*1 『文藝塔』 所載田中周友博士著作

・『文藝塔』第22巻第1号（誤植で、表紙には「第二十一巻」と印刷）（昭和23年1月号）
5頁

田中暁人「丹波一年（連作）」（冠句7句）

ここに「あゝ丹波」を冠題とする田中先生の7句が掲載されている。

あゝ丹波なにに譬えん秋のいろ

あゝ丹波春秋汝を愛でて来し

あゝ丹波住みて暮してなつかしき

あゝ丹波いえづとにせん柿と栗

あゝ丹波蒼茫とまたけふも暮れ

あゝ丹波もみぢの錦はてしらぬ

あゝ丹波かはたれのいろ永久によき

・『文藝塔』第22巻第6号（昭和23年7月号） 5～6頁

田中周友「冠句連作私考一（短詩形文学の本質から）一」

（参考：昭和28年（1953年）に『文藝塔叢書』全5冊が発刊され、その一冊『近代冠句講話』（下巻）（昭和29年12月20日刊）所収の「近代冠句連作論」（久佐太郎）で、齋藤治、坂本雨声の論と共に、田中博士の上記「冠句連作私考」が転載されている。後掲「*『文藝塔叢書』所載田中周友博士著作」参照。）

・『文藝塔』第22巻第9号（昭和23年10月号）錦繡十月号 1～2頁

田中周友「久佐主幹への書簡を通じて『冠句図書館建設の提言』」

田中暁人「書物のかほり」（文章ではなく冠句7句）

・『文藝塔』第23巻第1号（昭和24年1月号）絢爛新春特輯号 9～10頁

田中暁人「旅の憶ひ出（其の一）」（紀行文。冠句16句を含む。）

・『文藝塔』第24巻第5号（昭和25年5・6月合併号）冠翁忌特集号 2～3頁

田中暁人「新緑特輯 世界冠句行脚」（「旅の憶ひ出（其の二）」に該当するエッセイ。冠句46句を含む。）

・『文藝塔』第24巻第8号（昭和25年9月号） 1頁

田中暁人「芳名簿から句集へ」（書簡形式のエッセイ）

・『文藝塔』第25巻第4号（昭和26年8月盛夏号） 7頁

田中暁人「琉球ほか」

・『文藝塔』第29巻第9号（昭和30年9月号）久佐太郎追悼特輯号 8～9頁

田中周友「久佐大人の思い出」

・『文藝塔』第30巻第10号（昭和31年12月号） 12頁

田中周友「確乎たる前進を 文芸塔三十周年を祝して」

・『文藝塔』第35巻第1号（昭和36年1月号） 14頁

田中周友「京大図書館所蔵の冠句古本」

（岩浅先生註：京大附属図書館の館長 [昭和32（1957）] 年7月15日～同38（1963）年7月14日] をなさっていた頃に、図書館にある2冊の冠句の書物について書かれたもので

すが、文章の最後に「あとはいつか他日に。」と書かれているところを見ると、まだこのあとも田中先生の稿が見つかるのではないかという心配（と期待）をおぼえます。）

・『文藝塔』第40巻第8号（昭和41年8月号）通巻四百五拾号記念特集号 6～7頁

田中周友「久佐太郎大人とわたくし」

・『文藝塔』第44巻第10号（昭和45年10月号）通巻五百号記念特別号 12～14頁

田中周友「福知山から鹿ヶ谷へー久佐太郎さんの思い出からー」

・『文芸塔』第50巻第10号（昭和51年10月号。昭和47年6月号以降表紙の文字が「文芸塔」に変更。）創立50周年記念特別号 2頁

（文芸塔創刊五十年周年に寄せて）

田中周友「久佐太郎さんと桜月さん」（早川桜月：文芸塔社第二代主幹）

（参考）『文藝塔』所載田中周友博士関係記事

・『文藝塔』第21巻（誤植で表紙には「第20巻」と印刷）第3号（昭和22年11月）7頁（村崎野石「編輯室の窓から」）

・『文藝塔』第22巻第7号（昭和23年倍大特輯8月号）12～14頁（久佐太郎「制約の自由性・其他」）

・『文藝塔』第23巻第9号（昭和24年9月）新秋爽涼号 16～17頁（久佐太郎「吾楽荘机語」（エッセイ。田中博士の冠句5句を含む。））

・『文藝塔』第24巻第4号（昭和25年4月）藤蔭号 1頁（久佐太郎「一吾楽荘句帖一 花庵だより（田中博士の冠句5句を含む。）」）、8頁（久佐太郎「机語」（コラム））

・『文藝塔』第24巻第10号（昭和25年11月号）2～3頁（久佐太郎「吾楽荘机語」）

・『文藝塔』第25巻第1号（昭和26年新春号）4～5頁（編集部「今年に期待されるもの」）

・『文藝塔』第25巻第5号（昭和26年9月号）表紙裏（本社創立二十五周年記念大会予告）、3頁（企画部「大会宿題選者紹介」）、裏表紙（「冠句界」）

・『文藝塔』第25巻第6号（誤植で表紙には「第五号」と印刷）（昭和26年10月特集号）13頁（「観光冠句『京の四季』大会（主催：京都市観光局・文藝塔社）の予告」）

・『文藝塔』第25巻第8号（昭和26年12月号）10頁（「文芸塔社創立二十五周年記念 全国冠句大会」）、11頁（「当日の句会成績」）

・『文藝塔』第26巻第4号（昭和27年4月特集号）裏表紙（「編集室」欄）

・『文藝塔』第27巻第5号（昭和28年5月号）

文藝塔叢書第1巻『夏木立』の広告に、要目があり、「跋文（田中周友）」とある由（nacsis webcat に拠れば、「夏木立：鳥帽子附撰集 / 堀内雲鼓著；久佐太郎解説<ナツコダチ：エボシツキ（マ、エボシヅケ）センシュウ>. -- (BA42408736) 京都：文藝塔社、1953.6 87p；21cm. -- (文藝塔叢書；1) 注記：謄写版」とのこと）。ただし、実際は、第1巻『夏木立』（発行所：冠句研究 文藝塔社、昭和28年6月15日刊）に田中博士の跋文はなく、跋文に当たるのは、第2巻『堀内雲鼓研究』（発行所：文藝塔社、昭和28年8月1日刊）の序文として掲載されている上記久佐太郎宛書簡形式の「古典について（序）」（1～3頁）なる文章である。

・『文藝塔』第28巻第3号（昭和29年3月号）裏表紙（「冠句界」欄）

・『文芸塔』第37巻第4号（昭和38年4月号）建碑祭特集号 1頁（扉）（「久佐太郎先生建碑記念特輯号」と記載、句碑の写真（久佐太郎先生遺句・田中周友教授筆）、2～3頁（写真、2頁：来賓・田中周友京大教授祝辞、3頁：除幕式参会者の一部）、裏表紙（「祝辞、祝電御礼」）

・『文芸塔』第85巻第2号（平成23年2月号、同年2月5日刊）20頁（松尾明美（現在、文芸塔社主幹）「塔映山声」は、田中博士と久佐太郎の件、田中博士「連作私考」に言及している。）（本件は、平成23（2011）年3月19日松尾尊允先生（1929～2014）の御示教に拠る。誌して謝意を表するものである。）（平成23年3月20日追加）（松尾尊允先生におかれては、平成26（2014）年12月14日長逝された。謹んで御冥福をお祈りいたすものである。）（平成27年5月31日追加）

*2 文芸塔社刊行物所載田中周友博士著作

・田中暁人（田中周友博士雅号）「古典について（序）」久佐太郎（太田稠夫）『堀内雲鼓研究』（発行所：文芸塔社、昭和28年8月1日刊。文芸塔叢書第2巻）1～3頁（久佐太郎宛書簡形式の文）

・田中暁人「冠句連作私考—短詩形文学の本質から—」文芸塔社編『近代冠句講話（下）』（発行所：文芸塔社、昭和29年12月20日刊。文芸塔叢書第5巻）19～21頁（齋藤治・坂本雨声、田中暁人「近代冠句連作論」所収。上記『文芸塔』第22巻第6号〈昭和23年7月号〉昭和23年7月号5～6頁掲載論文の転載。）

・田中周友「久佐さんとこしえに 福知山と京都の晩年の回想」『冠句集—文芸塔 発刊六十五周年記念』2～6頁（文芸塔社編集部、平成5（1993）年1月吉日刊）（田中家家系、明治40（1907）年3月末夏目漱石（1867～1916）の田中邸滞在の件等にも言及されており、貴重な文献である。なお、大場修（1955～）・辻晶子「近世末期下鴨神社における社家町を含む周辺地域の構成」『20世紀における京都の文化と景観に関する学際的研究—下鴨・北山地域を中心に』（平成21年度京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）研究成果報告書24～75頁、平成22年3月刊行）〈<http://ci.nii.ac.jp/naid/110008901338>〉、〈<http://ci.nii.ac.jp/naid/110007703279>〉をも参照。）

（追記1: 京都府衛生課編『京都市内腸チフス流行主因調査書』（京都府警察部衛生課、大正15（1926）年5月30日刊）は、下鴨本通り開通前の下鴨警察署管内図（「近代デジタルライブラリー」〈<http://kindai.ndl.go.jp/>〉12、13コマ）を掲載していて興味深い。平成23年3月20日追加）

（追記2: 後掲「（17）田中周友博士御旧邸をめぐる夏目漱石関係」参照。平成27年5月31日追加）

***3 『冠句京都』 所載田中周友博士著作**

- ・ 田中周友「(随筆) 久佐太郎さんへの追憶」『冠句京都』第9巻第9号(文芸塔社京都支部、昭和35年9月1日刊)1頁(平成24年2月27日追加) ⇒
〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1862424/1/2>〉(令和5(2023)年9月5日追加)

***4 『冠句』 所載田中周友博士著作**

- ・ 田中周友「圓山公園の久佐太郎冠句碑」『冠句』第50号・創刊五〇号記念特集(平成3(1991)年1月刊)5~6頁(『冠句』は、編集発行 松尾明美(文芸塔京都支部主宰、現在、文芸塔社主幹)文芸塔京都支部)

***5 田中周友博士書関係 (上記「(14) 書関係」参照。)**

- ・ 書籍の題字(田中周友博士筆)
『蒼天一久佐太郎遺作冠句集』(発行者 早川桜月、発行所 文芸塔社、昭和33(1958)年7月1日刊)
〈<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/1357816/1/1>〉(URL: 令和6(2024)年1月1日追加)
- ・ 久佐太郎句碑([忘れ傘また来る謎の春の酔] 田中周友博士筆)が、京都圓山公園に建立除幕(昭和38(1963)年3月21日竣工)
〈<http://www.prodigy.jp/~bungeito/may03.html>〉

(16) 田中家文書関係資料

(追記: 従来の「(16) 田中家文書関係」を「(16) 田中家文書関係資料」に改め、「ア 京都女子大学図書館所蔵『下鴨社家日記』(田中家日記) 関係資料」を新設し、従前のものを「イ その他」とした。令和 5 (2023) 年 5 月 22 日追加)

ア 京都女子大学図書館所蔵『下鴨社家日記』(田中家日記) 関係資料 (令和 5 (2023) 年 5 月 22 日新設)

- ・佐藤文子 (1965～) 「京都女子大学図書館所蔵『下鴨社家日記』(田中家日記) について」『史窓』第 55 号 (平成 10 (1998) 年 3 月 15 日刊) 111～141 頁
(「京都女子大学学術情報リポジトリ(京女 AIR)」〈<http://repo.kyoto-wu.ac.jp/>〉未掲載。)
- ・稲本紀昭 (1940～)・佐藤文子 (1965～) 編『京都女子大学図書館所蔵 下鴨社家日記 I』(京都女子大学研究叢刊 31、京都女子大学、平成 11 (1999) 年 1 月 30 日刊。解説:508～514 頁。「神殿守」(訓「こうどす」)
〈<https://ndlonline.ndl.go.jp/#!/detail/R300000001-I000002762175-00>〉
- ・稲本紀昭 (1940～)・佐藤文子 (1965～) 編『京都女子大学図書館所蔵 下鴨社家日記 II』(京都女子大学研究叢刊 35、京都女子大学、平成 12 (2000) 年 3 月 10 日刊)(同書 4「あとがき」(657 頁)によれば「II 巻迄に収めえたのは、『下鴨社家日記』全体の一分にも満たない量であり、前途遙か、ではあるが、」とある。その後は未刊か。
〈<https://ndlonline.ndl.go.jp/#!/detail/R300000001-I000002872435-00>〉
- ・岸妙子「京都近郊における延宝検地の一事例——「田中伊連日記」にみる下鴨村延宝検地記事を中心に——」『史窓』第 57 号 (平成 12 (2000) 年 3 月 15 日刊) 75～85 頁
〈<http://hdl.handle.net/11173/671>〉
- ・岸本香織「『下鴨社家日記』にみる賀茂伝奏と下鴨社惣代——延宝期を中心に——」『史窓』第 57 号 (平成 12 (2000) 年 3 月 15 日刊) 87～101 頁
〈<http://hdl.handle.net/11173/678>〉
- ・宇佐美尚穂「近世下鴨社における年中行事」『史窓』第 57 号 (平成 12 (2000) 年 3 月 15 日刊) 103～117
〈<http://hdl.handle.net/11173/675>〉
- ・佐藤文子 (1965～) 「近世都市生活における疱瘡神まつり——「田中兼頼日記」を素材として——」『史窓』第 57 号 (平成 12 (2000) 年 3 月 15 日刊) 119～130 頁
〈<http://hdl.handle.net/11173/674>〉
- ・下鴨社家日記研究会「京都女子大学図書館所蔵 下鴨社家日記紙背文書目録」『史窓』第 63 号 (平成 18 (2006) 年 2 月 10 日刊) 69～120 頁
〈<http://hdl.handle.net/11173/740>〉
(参考)
- ・母利美和・渡邊友花・鈴木麻倫子「〈史料紹介〉下鴨社司南大路家文書」『史窓』第 66 号 (平成 21 (2009) 年 2 月 20 日刊) 51～85 頁 (平成 20 (2008) 年度に京都女子大学図

書館が購入した「下鴨社司南大路家文書」の調査成果紹介)

(「京都女子大学学術情報リポジトリ(京女 AIR)」〈<http://repo.kyoto-wu.ac.jp/>〉未掲載。)
〈<https://iss.ndl.go.jp/books/R000000004-I10195227-00>〉

イ その他

・平成 24 (2012) 年度古典籍展観大入札会出品 (於東京古書会館、平成 24 (2012) 年 11 月 16 (金)、17 (土) 日一般公開 (プレビュー)、同年 11 月 18 (日)、19 日 (月) 入札会)
(平成 24 年 11 月 16 日追加)

〈<http://www.koten-kai.jp/catalog/information.php?siID=23>〉

「1265 賀茂御祖神社田中家文書 正徳～昭和期 五代にわたる下鴨神社禰宜家の記録付和歌懐紙三十通 一括」(落札先は現時点では不明)

・泰成堂書店ネット目録 (平成 26 (2014) 年 11 月 22 日現在)「京都帝国大学法学部教授 田中周友旧蔵海外書簡・葉書一括約 1200 通 ほとんどがベルリン・パリ・他にアメリカ・アジアなど有 大正期～戦前 (一部戦後有) No. 90603 価格: 262,500 円」あり。

〈http://taiseido.koshoten.net/catalog/product_info.php?products_id=90603〉

(平成 26 年 11 月 22 日追加)

(再確認)

・HP「日本の古本屋」〈<https://www.kosho.or.jp/>〉⇒泰成堂書店 武蔵野市
¥262,500

「京都帝国大学法学部教授田中周友旧蔵海外書簡・葉書一括約 1200 通」

(令和 4 年 1 月 6 日追加)

(ただし、令和 5 (2023) 年 5 月 22 日現在では再確認できないことから、既に売却済かと思われる。(令和 5 年 5 月 22 日追加))

・HP「日本の古本屋」〈<https://www.kosho.or.jp/>〉⇒港や書店 東京都文京区大塚
¥37,800

「京大法学部教授・田中周友旧蔵 東アジア視察旅行交換名刺一括 昭 10・15 頃、145 枚 旅行メモ帖 2 冊共 関連書簡や申請書等を附す 昭和 10～15 年頃の満洲・支那・朝鮮・台湾出張時に現地で交換した名刺一括。/司法関係者や政財官の実務者が中心。うち広東～台湾視察時の 63 枚には通し番号が振られ、裏面には個人情報や対面時の状況や印象がメモされて(。)」

(平成 27 年 2 月 8 日追加)

・HP「日本の古本屋」〈<https://www.kosho.or.jp/>〉⇒古書リネン堂 文京区
¥2,000

「京大教授・田中周友 手製ベルリン地図帳」

(令和 4 年 1 月 6 日追加)

(17) 田中周友博士御旧邸をめぐる夏目漱石関係 (平成 25 (2013) 年 8 月 27 日新設)

(追記)

本節(「(17) 田中周友博士御旧邸をめぐる夏目漱石関係」)の基となる諸稿作成時点においては、寡聞にして明治 40 (1907) 年 3 月末夏目漱石 (1867~1916) の田中先生邸滞在の件等にも言及されている貴重な文献である田中周友先生「久佐さんとしえに 福知山と京都の晩年の回想」『冠句集一文芸塔 発刊六十五周年記念』2~6 頁(文芸塔社編集部、平成 5 (1993) 年 1 月吉日刊)のことを存じ上げなかったことから、以下の記載は今では殆ど意味をなさないものとなっていることを遺憾に思う。ただ、本件検討資料の一つとしてこのまま残させていただくことをお断りしておく。平成 21 (2011) 年秋に上記文献をはじめ田中周友先生の冠句関係についてお教えいただいた岩浅武久先生に改めて厚く御礼申し上げます。

(令和 6 (2024) 年 1 月 1 日追加)

[目次]

経薫「夏目漱石の明治 40 年 3 月末京洛滞在地について—田中周友先生御旧邸をめぐる—」
(一部補正) ……………62
(別稿 1) 「田中周友先生御旧邸と夏目漱石滞在関係『毎日新聞』各版記事比較対照表」
……………65
(別稿 2) 「明治 40 年 3 月末 [夏目] 漱石京洛滞在地覚書—田中周友先生御旧邸をめぐる—」
……………71

経薫「夏目漱石の明治 40 年 3 月末京洛滞在地について—田中周友先生御旧邸をめぐる—」
(一部補正)

夏目漱石 (1867~1916) の明治 40 (1907) 年 3 月 28 日から 4 月 11 日まで 15 日間の上洛については、一切の教職を離れて新聞界に投ずる重要な時期の狭間に当たるため、これまで多くの論者がこれに言及してきたが、併せて、その時漱石が滞在了た当時の京都府愛宕郡下鴨村 24 番地 (すなわち夏目漱石「京に着ける夕」(『大阪朝日新聞』明治 40 年 4 月 9 日~11 日)の舞台)の狩野亨吉 (1865~1942) の借家についても、多年関心が寄せられていた。ただ、これは、昭和 62 (1987) 年 10 月 29 日の『毎日新聞』夕刊 [補註 正しくは同大阪本社版] が京都市左京区下鴨森本町 24 番地・京都大学名誉教授田中周友先生 (かねとも、1900~1996、著名なローマ法学者) 宅 (以下「田中周友先生旧邸」。) であることを、江藤淳氏 (1933~1999) のコメント付きで報じた (後掲別稿 1 参照。) ことから、それで、一応けりが着いたと思われていた。しかるに、最近本件を再検討するうちに、近年これについて別の様々な見解が出ていることが判明したので、この経緯を少しく調べてみた (後掲別稿 2 参照。)。詳細は他日に譲るが、要旨は次のとおりである。

上記『毎日新聞』の記事によれば、田中家に同家と狩野亨吉との建家借用証書及び狩野

の入居を伝える田中周友先生御母堂雪枝様の日記が残されているとのこと、某氏が現地を
実査し漱石「京に着ける夕べ」での方向感覚を確認し得たこと等〔補註 同氏はその後平成
23（2011）年2月に再踏査し、再検討された由〕から、当時の下鴨村24番地は上記田中
周友先生旧邸と考えるべきである。

ほぼ田中周友先生旧邸と思われていた本件が、確定できずに現在に至った要因としては、
① 上記『毎日新聞』の記事が、何故か学界に周知されず、漱石専門家が知り得ていないこ
と（本記事は京都版〔補註 正しくは大阪本社版〕のみ掲載だったのか。このあたりは残念
ながら不明。）、② 『毎日新聞』の記事にコメントした江藤淳氏が何故かその後の著書（例
えば『漱石とその時代』第四部（新潮社、平成8（2020）年10月26日刊）10頁）で触
れなかったことが挙げられ、この解明がまず当面の課題であろう。

（平成19（2007）年4月3日稿）

（経薫「夏目漱石の明治40年3月末京洛滞在地について―田中周友先生御旧邸をめぐっ
て」『国語教育』第27巻第6号（通巻第326号、東京法令出版（株）、平成19（2007）
年8月1日刊）103頁「情報ファイル」）

※「京に着ける夕」（青空文庫）

〈http://www.aozora.gr.jp/cards/000148/files/777_43437.html〉

（参考1）

・別稿1「田中周友先生御旧邸と夏目漱石滞在関係『毎日新聞』各版記事比較対照表」
（〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/mainichi871029.pdf>〉参照。「昭和62（1987）
年10月29日『毎日新聞』夕刊」とは、昭和62年10月29日（木）『毎日新聞』（夕刊）
大阪本社版夕〇版及び夕4版のこと（補註：平成23年9月6日追加））。

・別稿2「明治40年3月末〔夏目〕漱石京洛滞在地覚書―田中周友先生御旧邸をめぐって―」
（初出：『ローマ法・法制史学者著作目録選』第4輯（冊子版、平成16年3月1日
刊）77～80頁。御旧邸住所：京都市左京区下鴨森本町24）

（参考2）

・京都市編『史料 京都の歴史8 左京区』（平凡社、昭和60（1985）年11月30日刊）
（令和6（2024）年月1日追加）
・田中周友「久佐さんとしえに 福知山と京都の晩年の回想」『冠句集―文芸塔 発刊六
十五周年記念』2～6頁（文芸塔社編集部、平成5（1993）年1月吉日刊）（田中家家系、
明治40（1907）年3月末夏目漱石（1867～1916）の田中邸滞在の件等にも言及されてお
り、貴重な文献である。（「(15) 冠句関係」参照。）
・和田隆夫（1951～）「恩師の思い出」『OUHS ジャーナル』第184号（大阪体育大学広
報委員会、平成19（2007）年7月27日刊、ネット掲載。同誌連載記事「我が青春の記」
欄の一つ、田中周友先生の思い出と同先生御旧邸のことが書かれており貴重。

〈<http://www.ouhs.jp/ouhs-journal/184/184-20.html>〉（平成20年2月15日追加）

・和田隆夫（1951～）『社会保障・福祉と民法の交錯』（法律文化社、平成 25（2013）年 12 月 20 日刊）あとがき（「平成 25 年 11 月吉日」とある。上記の件にも言及あり。）

〈<http://www.hou-bun.com/cgi-bin/search/detail.cgi?c=ISBN978-4-589-03472-4>〉

〈https://www.hou-bun.com/l2atogaki/03472-4_a.pdf#search=%E7%94%B0%E4%B8%AD%E5%91%A8%E5%8F%8B〉

（平成 27 年 5 月 23 日追加）

・大場修（1955～）、辻晶子「近世末期下鴨神社における社家町を含む周辺地域の構成」『20 世紀における京都の文化と景観に関する学際的研究—下鴨・北山地域を中心に』（平成 21 年度京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）研究成果報告書 24～75 頁、平成 22（2010）年 3 月刊行）〈<http://ci.nii.ac.jp/naid/110008901338>〉、

〈<http://ci.nii.ac.jp/naid/110007703279>〉をも参照。）（平成 27 年 5 月 23 日追加）

・辻晶子「京都下鴨地域における近代の市街地形成に関する史的研究（建築史・建築意匠・建築論）」『日本建築学会近畿支部研究報告集．計画系（52）』（平成 25（2013）年 5 月 25 日刊）801～804 頁 〈<http://ci.nii.ac.jp/naid/110009572143>〉

同稿引用の京都市明細図オーバーレイマップは貴重である。昭和 2（1927）年頃のものである。〈<http://www.geo.lt.ritsumeai.ac.jp/meisaizu/googlemaps.html>〉京都府立総合資料館が平成 23（2011）年に出したらしく、立命館大学で現在の地図に重ねたオーバーレイを公表している。田中博士旧邸の西側は現在の下鴨本通を越えて下鴨の特異な三角地帯のところまで伸びていたようである。一部の著作に見られる田中博士旧邸らしき写真はこの三角地帯の北西側から撮ったらしく、前の道は下鴨本通を斜めに突ききって続いていることがわかる。（平成 27 年 5 月 23 日追加）

(別稿 1)

田中周友先生御旧邸と夏目漱石滞在関係『毎日新聞』各版記事比較対照表

平成 19 (2007) 年 9 月 9 日 (日) 09 時初稿作成

平成 23 (2011) 年 9 月 5 日 (月) 22 時作成改訂稿作成

(誤植補正、構成一部変更等)

[目 次]

(参考)

- ・ 本件概要: <<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/soseki001.pdf>>
- ・ 夏目漱石「京に着ける夕」 (青空文庫)
<http://www.aozora.gr.jp/cards/000148/files/777_43437.html>
- ・ 夏目漱石「京に着ける夕」『定本 漱石全集』第 12 卷 (小品。岩波書店、平成 29 (2017) 年 9 月 8 日刊。本文: 71~77 頁。注解: 646~649 頁、後記: 778~779 頁、校異表: 835~836 頁。) (令和 6 (2024) 年 1 月 1 日追加)
- ・ 下鴨村 <<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%8B%E9%B4%A8%E6%9D%91>> (令和 5 (2023) 年 ? 月 ? 日追加)
- ・ 丹治伊津子「夏目漱石「京に着ける夕」論—寄席・落語に始まった子規との交友—」
<<http://bungeikan.jp/domestic/detail/945/>> (令和 6 (2024) 年 1 月 1 日追加)

- 1 『毎日新聞』 (夕刊) 昭和 62 (1987) 年 10 月 29 日 (木) 大阪本社版夕〇版及び夕 4 版異同比較 (夕〇版: 夕 4 版以前のもの、版数不明) ……65
- 2 『毎日新聞』 (夕刊) 昭和 62 (1987) 年 10 月 29 日 (木) 大阪本社版夕〇版第〇面 ……68
- 3 『毎日新聞』 (夕刊) 昭和 62 (1987) 年 10 月 29 日 (木) 大阪本社版夕 4 版第 10 面 ……69

1 『毎日新聞』 (夕刊) 昭和 62 (1987) 年 10 月 29 日 (木) 大阪本社版夕〇版及び夕 4 版異同比較 (夕〇版: 夕 4 版以前のもの、版数不明⁴⁾)

(註 1) 本記事は、今一つ確認できていないが、『毎日新聞』東京本社版には掲載されていない模様である。『毎日新聞』(東京)縮刷版には出ていないようである。

(註 2) 下記に掲載した記事 2 は、『毎日新聞』(夕刊)昭和 62 (1987) 年 10 月 29 日 (木) 大阪本社版夕〇版のものであるが、さる個人御秘蔵の切抜で、同紙全体を見ることができなかったので、「夕〇版」の版数と面数が確認できていない。

⁴ 『毎日新聞』夕刊には、夕 2、3、4 版があるようである。(平成 23 年 9 月 5 日追加)

(註3) 国立国会図書館所蔵の大阪本社版は、未だ確認していない。

(註4) 例えば京都府立図書館所蔵の同日同紙は、下記3の「昭和62(1987)年10月29日(木)大阪本社版夕4版」であり、その第10面に、当該記事が掲載されているが、一部に省略その他があり、内容は(註2)記事の方がより詳しい。これよりすると、(註2)記載の版は、おそらく同日の「夕4版」以前の版と思われ、この方が価値があると思われる。ちなみに、両版の異同箇所は、※、※※で示した。

(註5) 大阪本社版夕〇版については、平成15(2003)年初め頃上山安敏先生の御紹介で上記御個人御秘蔵の切抜を見せていただき、また、京都府立図書館所蔵の大阪本社版夕4版については、初稿作成当時(平成19(2007)年8月24日)松尾尊允先生(1929~2014)の御示教に与った。ここに、改めて深甚の謝意を表するものである(平成23年9月5日追加)。(松尾尊允先生におかれては平成26(2014)年12月14日長逝された。謹んで御冥福をお祈りいたすものである(平成27年5月31日追加))。

(見出し) (夕〇版 ⇒ 夕4版)

夏目漱石の短編「京に着ける夕」 ⇒ 漱石の短編「京に着ける夕」

舞台は田中・京大名誉教授宅 (同じ)

15日滞在し、作家生活開始 虞美人草の想練る ⇒ 15日間滞在し虞美人草に想

(掲載写真) (夕〇版 ⇒ 夕4版)

1 「夏目漱石」の肖像 ⇒ 写真が差し替わっている。

2 「漱石が半月間滞在し「虞美人草」の想を練った部屋に座る田中・京大名誉教授」なるキャプションの付いた写真 ⇒ ほぼ同じであるが、夕〇版での写真の周辺が少しカットされている。

(掲載図版) (夕〇版 ⇒ 夕4版)

田中名誉教授宅の周辺図 (同じ)

(冒頭説明記事) (夕〇版をベースにし、夕4版との異同箇所は※、※※で示した。)

(共通箇所)

□文豪、夏目漱石が「虞(ぐ)美人草」の構想を練り、本格的な作家生活に入ってから初めての作品「京に着ける夕」(明治四十年発表)の舞台は、京都市左京区下鴨森本町二四の田中周友(かねとも)・京大名誉教授(八七)宅であることが、田中名誉教授の母親雪枝さん(故人)の日記などから分かった。当時、狩野亨吉・京都帝国大学文科大学(現京大文学部)学長(一八六五—一九四二年)が田中家から借りて住んでいた借家に、親友の漱石が明治四十年三月二十八

※1 (夕〇版)

日から十五日間滞在したもので、漱石が作品で描写した敷地や部屋もほぼ当時のまま残っており、漱石研究で知られる江藤淳・東京工大教授は「この家で漱石は作家生活へ入る不

安を克服した」といい、新発見に注目している。

※※1 (夕4版)

日から十五日間滞在したもので、漱石が作品で描写した部屋もほぼ当時のまま残っている。

(記事本文) (夕〇版をベースにし、夕4版との異同箇所は※、※※で示した。)

※2 (夕〇版)

■「京に着ける夕」は漱石が東京から京都に着き、狩野宅で泊まるまでの半日を中心に正岡子規との思い出を織り交ぜながら描いた短編。田中家は七百年続く下鴨神社の世襲の神職である社家(しゃけ)のひとつ。田中名誉教授の父周道さん(故人)

※※2 (夕4版)

■「京に着ける夕」は漱石が東京から京都に着き、狩野宅で泊まるまでの半日を中心に正岡子規との思い出を織り交ぜながら描いた短編。田中名誉教授の父周道さん(故人)

(共通箇所)

は、銀行に勤めていて、勤め先に近い京都市中京区二条通高倉に一時、引っ越していた。この間、狩野学長が借りていた。最近田中名誉教授が家屋改築のため書庫を整理したところ、周道さんが明治四十年二月、狩野学長と交わした建家借用証書や、雪枝さんが同年一月からつけていた日誌、メモ類などが見つかった。

借用証書には明治四十年二月二十日の日付と田中、狩野両氏の署名、押印とともに、「賃借料一カ月十八円、敷金十八円で借り受ける」などと記載されている。また雪枝さんの日誌には「本宅借主は狩野氏に決まり……」(二月十七日)「狩野氏が本日引っ越したり」(二月二十日)など詳細に記されている。

※3 (夕〇版)

■これまで漱石の日記や書簡などから漱石が明治四十年、旧制一高教師を辞め、朝日新聞社に在宅小説記者として入社、作家生活に入るとともに、京都の狩野学長宅に滞在していたことは知られているが、田中家と狩野学長の賃貸関係がはっきりしなかった。さらに田中名誉教授も両親から漱石の寄宿を知らされておらず、「京に着ける夕」の中に「わが家の寂然たる十二畳」とある部屋が実際は十畳しかなかったこともあって特定出来ずにいた。

※※3 (夕4版)

■これまで漱石の日記や書簡などから漱石が明治四十年、作家生活に入るとともに、京都の狩野学長宅に滞在していたことは知られているが、田中家と狩野学長の賃貸関係がはっきりしなかった。さらに田中名誉教授も両親から漱石の寄宿を知らされていなかったこともあって特定出来ずにいた。

(共通箇所)

■江藤教授によると、漱石は親友に作家一本の生活の不安を相談したかったのと、最初に

入社を勧誘された大阪朝日を断り、東京朝日に入社したことを申し訳なく思って「虞美人草」の冒頭に京のシーンを入れようと取材に京都を訪れたといい、「”京に着ける夕”は漱石作品には珍しく、作者の不安、いらだちがストレートに出ている。ぜひ私も訪れたい」と話している。

※4 (夕〇版)

■田中名誉教授は「ほとんど家屋に手をつけなかったことが幸いした。漱石ファンの一人として漱石が身近に感じられ、うれしい」と話している。

※※4 (夕4版)

(この部分全部省略)

2 『毎日新聞』(夕刊)昭和62(1987)年10月29日(木)大阪本社版 夕〇版第〇面 (夕〇版: 夕4版以前のもの、版数不明、さる個人御秘蔵切抜)

(見出し)

夏目漱石の短編「京に着ける夕」

舞台は田中・京大名誉教授宅

15日滞在し、作家生活開始 虞美人草の想練る

(掲載写真)

1 「夏目漱石」の肖像

2 「漱石が半月間滞在し「虞美人草」の想を練った部屋に座る田中・京大名誉教授」なるキャプションの付いた写真

(掲載図版)

田中名誉教授宅の周辺図

(冒頭説明記事)

□文豪、夏目漱石が「虞(ぐ)美人草」の構想を練り、本格的な作家生活に入ってから初めての作品「京に着ける夕」(明治四十年発表)の舞台は、京都市左京区下鴨森本町二四の田中周友(かねとも)・京大名誉教授(八七)宅であることが、田中名誉教授の母親雪枝さん(故人)の日記などから分かった。当時、狩野亨吉・京都帝国大学文科大学(現京大文学部)学長(一八六五—一九四二年)が田中家から借りて住んでいた借家に、親友の漱石が明治四十年三月二十八日から十五日間滞在したもので、漱石が作品で描写した敷地や部屋もほぼ当時のまま残っており、漱石研究で知られる江藤淳・東京工大教授は「この家で漱石は作家生活へ入る不安を克服した」といい、新発見に注目している。

(記事本文)

■「京に着ける夕」は漱石が東京から京都に着き、狩野宅で泊まるまでの半日を中心に正岡子規との思い出を織り交ぜながら描いた短編。田中家は七百年続く下鴨神社の世襲の神職である社家(しゃけ)のひとつ。田中名誉教授の父周道さん(故人)は、銀行に勤めていて、勤め先に近い京都市中京区二条通高倉に一時、引っ越していた。この間、狩野学長が借りていた。最近田中名誉教授が家屋改築のため書庫を整理したところ、周道さんが明治四十年二月、狩野学長と交わした建家借用証書や、雪枝さんが同年一月からつけていた日誌、メモ類などが見つかった。

■借用証書には明治四十年二月二十日の日付と田中、狩野両氏の署名、押印とともに、「賃借料一カ月十八円、敷金十八円で借り受ける」などと記載されている。また雪枝さんの日誌には「本宅借主は狩野氏に決まり……」(二月十七日)「狩野氏が本日引っ越したり」(二月二十日)など詳細に記されている。

■これまで漱石の日記や書簡などから漱石が明治四十年、旧制一高教師を辞め、朝日新聞社に在宅小説記者として入社、作家生活に入るとともに、京都の狩野学長宅に滞在していたことは知られているが、田中家と狩野学長の賃貸関係がはっきりしなかった。さらに田中名誉教授も両親から漱石の寄宿を知らされておらず、「京に着ける夕」の中に「わが家の寂然たる十二畳」とある部屋が実際は十畳しかなかったこともあって特定出来ずにいた。

■江藤教授によると、漱石は親友に作家一本の生活の不安を相談したかったのと、最初に入社を勧誘された大阪朝日を断り、東京朝日に入社したことを申し訳なく思って「虞美人草」の冒頭に京のシーンを入れようと取材に京都を訪れたといい、「『京に着ける夕』は漱石作品には珍しく作者の不安、いらだちがストレートに出ている。ぜひ私も訪れたい」と話している。

■田中名誉教授は「ほとんど家屋に手をつけなかったことが幸いした。漱石ファンの一人として漱石が身近に感じられ、うれしい」と話している。

3 『毎日新聞』(夕刊)昭和62(1987)年10月29日(木) 大阪本社版夕4版第10面 (京都府立図書館所蔵)

(見出し)

漱石の短編「京に着ける夕」
舞台は田中・京大名誉教授宅
15日間滞在し虞美人草に想

(掲載写真)

- 1 「夏目漱石」の肖像:(夕○版)と写真が替わっている。
- 2 「漱石が半月間滞在し「虞美人草」の想を練った部屋に座る田中・京大名誉教授」なるキャプションの付いた写真:(夕○版)の写真とほぼ同じであるが、(夕○版)のもの

周辺が少しカットされている。

(掲載図版)

田中名誉教授宅の周辺図 (同じ)

(冒頭説明記事)

□文豪、夏目漱石が「虞(ぐ)美人草」の構想を練り、本格的な作家生活に入ってから初めての作品「京に着ける夕」(明治四十年発表)の舞台は、京都市左京区下鴨森本町二四の田中周友(かねとも)・京大名誉教授(八七)宅であることが、田中名誉教授の母親雪枝さん(故人)の日記などから分かった。当時、狩野亨吉・京都帝国大文科大学(現京大文学部)学長(一八六五—一九四二)が田中家から借りて住んでいた借家に、親友の漱石が明治四十年三月二十八日から十五日間滞在したもので、漱石が作品で描写した部屋もほぼ当時のまま残っている。

(記事本文)

■「京に着ける夕」は漱石が東京から京都に着き、狩野宅で泊まるまでの半日を中心に正岡子規との思い出を織り交ぜながら描いた短編。田中名誉教授の父周道さん(故人)は、銀行に勤めていて、勤め先に近い京都市中京区二条通高倉に一時、引っ越していた。この間、狩野学長が借りていた。最近、田中名誉教授が家屋改築のため書庫を整理したところ、周道さんが明治四十年二月、狩野学長と交わした建家借用証書や、雪枝さんが同年一月からつけていた日記、メモ類などが見つかった。

■借用証書には明治四十年二月二十日の日付と田中、狩野両氏の署名、押印とともに「賃借料一カ月十八円、敷金十八円で借り受ける」などと記載されている。また雪枝さんの日誌には「本宅借主は狩野氏に決まり……」(二月十七日)「狩野氏が本日引っ越したり」(二月二十日)など詳細に記されている。

■これまで漱石の日記や書簡などから漱石が明治四十年、作家生活に入るとともに、京都の狩野学長宅に滞在していたことは知られているが、田中家と狩野学長の賃貸関係がはっきりしなかった。さらに田中名誉教授も両親から漱石の寄宿を知らされていなかったこともあって特定出来ずにいた。

■江藤教授によると、漱石は親友に作家一本の生活の不安を相談したかったのと、最初に入社を勧誘された大阪朝日を断り、東京朝日に入社したことを申し訳なく思って「虞美人草」の冒頭に京のシーンを入れようと取材に京都を訪れたといい、「『京に着ける夕』は漱石作品には珍しく、作者の不安、いらだちがストレートに出ている。ぜひ私も訪れたい」と話している。

(以上)

(別稿 2)

明治 40 年 3 月末 [夏目] 漱石京洛滞在地覚書

—田中周友先生御旧邸をめぐって—

(H27-0531-20 現在)

(再録に当たりて: 本稿は、「明治 40 年 3 月末漱石京洛滞在地覚書—田中周友先生御旧邸をめぐって—」と題して『ローマ法・法制史学者著作目録選』第 4 輯(冊子版、平成 16 (2004) 年 3 月 1 日刊) 77~80 頁に収録したものであるが、今回誤植のみ修正したそのままのものを再録しておくこととした。本来ならば現時点でもとより再検討すべきものはあるが、その余裕がなかったことを遺憾に思う。なお、田中周友先生御旧邸の住所は京都市左京区下鴨森本町 24 である。(平成 27 (2015) 年 5 月 31 日追記)

(追記: 本稿作成時及び再録時には、甚だ迂闊なことに、田中家家系、明治 40 (1907) 年 3 月末夏目漱石 (1867~1916) の田中邸滞在の件等にも言及する貴重な文献(「(15) 冠句関係」参照。)である田中周友先生「久佐さんとしえに 福知山と京都の晩年の回想」『冠句集一文芸塔 発刊六十五周年記念』2~6 頁(文芸塔社編集部、平成 5 (1993) 年 1 月吉日刊)の件を存じ上げなかったことをお断りしておく。(令和 6 (2024) 年 1 月 1 日追加)

(平成 14 (2002) 年 10 月さる会合の懇親会の席上二、三の方々の間で何故か夏目漱石「京に着ける夕」(明治 40 年)における漱石滞在地のことが話題となったようで(平成 27 (2015) 年 5 月 31 日追記。今から思うと平成 14 (2002) 年 10 月 5、6 日に龍谷大学で開催された法制史学会第 50 回研究大会 <<https://www.jalha.org/soukai2/log/>> 懇親会での上山安敏先生と編者中二名 [平田公夫、吉原達也両氏] との対話であったのか。)、当時「田中周友先生略年譜・著作目録」を改訂しつつあった編者に調査依頼があった。本稿は、昨平成 15 (2003) 年 3 月中旬に取り急ぎの結果をまとめ、報告した内容である。その後ほぼこれでよいのではないかとのある種の感触を得たが、諸般の事情もあり、ここではそのまま再録しておく。なお、本稿は上記「田中周友先生略年譜・著作目録」の補遺の意味を有する。)

[目 次]

1 はじめに	72
2 過去の研究その他のいうところ	72
3 とりあえずの結論	74
4 問題点	74
5 今後の課題	75

1 はじめに

夏目漱石（1867～1916）の明治 40（1907）年 3 月 28 日から 4 月 11 日まで 15 日間の上洛については、一切の教職を離れて、新聞界に投ずる重要な時期の狭間に当たるため、従来より多くの論者がこれに言及しているが、併せて、その時漱石が滞在した当時の京都府愛宕郡（おたぎぐん）下鴨村 24 番地（すなわち夏目漱石「京に着ける夕」（『大阪朝日新聞』明治 40 年 4 月 9 日～11 日）の舞台。）の狩野亨吉（1865～1942）の借家についても、多年関心が寄せられていた。

（追加）青空文庫：〈http://www.aozora.gr.jp/cards/000148/files/777_43437.html〉参照。

ただ、これについては、昭和 62（1987）年 10 月 29 日の『毎日新聞』夕刊（本輯（第四輯）80 頁参照。上記にも再録。）が現在の京都市左京区下鴨森本町 24 番地の京都大学名誉教授田中周友先生（1900～1996）宅（当時。以下「田中周友先生旧邸」という。）であることを江藤淳（1933～1999）のコメント付きで報じたことから、それで一応けりが着いたと思われていた。

しかるに、昨平成 14（2002）年 10 月以来二、三の方が本問題を再検討するうちに、近年これについて別の見解が出ていることが判明したので、今回改めてこの経緯を少しく調べてみた。その結果は、次のとおりである。なお、取り敢えずの作業は平成 15（2003）年 2 月末に終わったが、今後も更に補訂に努めていきたいと考えている。

本稿を草するに当たっては、田中周友先生御令室の田中康子様、上山安敏先生、小林宏先生及び平田公夫、吉原達也両氏の御高配を賜った。ここに記して深甚の謝意を表す。また、中山好雄氏よりたえず御懇篤な御指導をいただいた。厚く御礼申し上げる次第である。

2 過去の研究その他のいうところ

(1) 狩野亨吉関係

狩野亨吉（1865～1942）については、青江舜二郎（1904～1983）『狩野亨吉の生涯』（明治書院、昭和 49（1974）年 11 月 30 日刊。後に昭和 62（1987）年 9 月刊中公文庫本あり。）に詳しい。しかし、本件については、狩野亨吉が明治 40（1907）年 2 月に下鴨村 48 番地から同 24 番地に転居したことは有名な話であり、青江も当然知っていたと思うが、何故かそのことについては何も記さず 48 番地のことのみ書いている（228、229 頁）。ただ、社家を借家にしていたといっているのです、48 番地も旧社家だったと思われる。

〈<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/12231160/1/125>〉（125 齣）

(2) 菅虎雄関係

当時菅虎雄（1864～1943）は狩野亨吉の借家に同居していたが、菅については、原武哲氏（1932～）『夏目漱石と菅虎雄—布衣禅情を楽しむ心友—』（教育出版センター、昭和

58 (1983) 年 12 月刊) が詳しい。原武氏は、この中で、明治 40 (1907) 年 2 月 22 日消印の東京・大塚保治 (1868~1931) から「京都府下鴨村 48 狩野様方 菅虎雄」宛の書簡が、付箋がついて、「廿四番地へ転居に付」として、「二十四番地木村方」に転送された事実 (京都着の消印: 明治 40 (1907) 年 2 月 24 日) を記している (282 頁)。ここで、初めて「24 番地木村」なる氏名が登場する。

(3) 夏目漱石関係

ア 高浜虚子

この時期に直接漱石の滞在場所に赴いたのが何人いるかは不明であるが、それを記録しているのは、管見の限りでは高浜虚子 (1874~1959) 「京都で会った漱石氏」『漱石氏と私』 (書店アルス、大正 7 (1918) 年 1 月 13 日刊) 210~231 頁のみかと思われる。

〈<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/1904832/1/126>〉 (116~126 齣)

ただ、これも「二十四番地に狩野といふ名札を見出して」(213 頁、117 齣) とのみあって、狩野亨吉の借家の持ち主が誰かは書いてなく、僅かにその家の状況が知られるのみであるが、上山安敏先生の御教示では田中周友先生旧邸の感じとほぼ一致するとのことである。なお、高浜虚子との再会については原武哲氏前掲『夏目漱石と菅虎雄—布衣禅情を楽しむ心友—』286~287 頁参照。

〈<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AB%98%E6%B5%9C%E8%99%9A%E5%AD%90>〉

(アドレス: 平成 27 年 5 月 31 日追加)

(令和 6 (2024) 年 1 月 1 日一部補正)

イ 江藤淳

江藤淳 (1933~1999) は、上記昭和 62 (1987) 年 10 月 29 日『毎日新聞』夕刊の記事にコメントを寄せているにもかかわらず、『漱石とその時代』第四部 (新潮社、平成 8 (1996) 年 10 月 26 日刊) 10 頁では、どうしたことか田中周友先生旧邸に触れず、24 番地の家について、これまた何故か上記青江の記述を註なしで引用している。これは、江藤が、当該『毎日新聞』の記事のことを失念したのか、あるいは敢えて意図的にそうしたのかは不明であるが、いずれにせよ、下鴨村 24 番地ではなく 48 番地のことを書いた青江の記述の引用であるので、本問題では対象外である。

〈<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B1%9F%E8%97%A4%E6%B7%B3>〉 (アドレス: 平成 27 年 5 月 31 日追加)

ウ 岡三郎氏

岡三郎氏 (1929~ [2020]) は、『夏目漱石研究』第三卷 (『虞美人草』と「京に着ける夕べ」の研究) (国文社、平成 7 (1995) 年 10 月 30 日刊) で、上記原武哲氏著のいう「二

十四番地木村方」なる住居を考証して、下鴨村 24 番地は現在の下鴨西林町に当たるとしている（749 頁以下）。

〈<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B2%A1%E4%B8%89%E9%83%8E>〉（アドレス：平成 27 年 5 月 31 日追加）

エ 新木直人氏

新木直人氏（平成 14 年 9 月時 65 歳（1937～））は、現在賀茂御祖神社（下鴨神社）の宮司であるが、権宮司であった平成 12（2000）年に、9 月 19 日の『京都新聞』第 2 面「現代のことば」で、考証の上当該場所を下鴨神社表参道の西側と推定している。これは、方向的には、田中周友先生旧邸と一致する。

〈http://www.groundinglab.com/lily/files/lily36/lily00_12.html〉（アドレス：平成 27 年 5 月 31 日追加）

〈<http://www.kyoto-np.co.jp/info/sofia/20101205.html>〉（同）

オ 水川隆夫氏

水川隆夫氏（1934～）『漱石の京都』（平凡社、平成 13（2015）年 5 月 14 日刊）は、京都における漱石の動きを研究した最近の研究書であるが、同氏は 25 頁で上記岡三郎氏の説を引用している。

〈<http://www.amazon.co.jp/%E6%B0%B4%E5%B7%9D-%E9%9A%86%E5%A4%AB/e/B004L2309G>〉（アドレス：平成 27 年 5 月 31 日追加）

3 とりあえずの結論

木村家説もさることながら、上記『毎日新聞』の記事によれば田中家に同家と狩野亨吉との建家借用証書及び狩野の入居を伝える田中周友先生御母堂雪枝様の日記が残されていることから、当時の下鴨村 24 番地は現在の下鴨森本町 24 番地の田中周友先生旧邸と考えるべきである。

なお、本件問題提起者の一人は、平成 14（2002）年 12 月 26 日現地を実査し、漱石の「京に着ける夕べ」での方向感覚を確認してきている。

4 問題点

ほぼ田中周友先生旧邸と思われていた本件が、確定できずに現在に至った要因としては、次のことが挙げられる。これらの解明がまず当面の課題である。

- ・上記『毎日新聞』の記事が何故か学界に周知されず、漱石専門家が知り得ていないこと（本記事は京都版掲載だったのか？ [補註 正しくは大阪本社版]）。
- ・『毎日新聞』の記事にコメントした江藤淳が何故かその後の著書で触れなかったこと

5 今後の課題

諸般の事情で上記田中家の各書類の閲覧が不可能な現在、最終結論は持ち越しとなるが、将来出来得るならば、各書類の再確認の機会が来ることを待ちたい。また、上記菅虎雄宛書簡付箋のいう「木村方」云々について、何故「木村」なる人物が登場するのか解決していく必要がある。

(以上)

(追記)

その後、当時の下鴨村 48 番地及び下鴨村 24 番地の地図その他を渉猟したが、様々な事由から未だ見つけ出せずにいる。(令和 6 (2024) 年 1 月 1 日追加)

(参考: 平成 27 年 5 月 31 日追加分)

上記「(16) 田中家文書関係資料 イ その他」関係分再録

・平成 24 (2012) 年度古典籍展観大入札会出品 (於東京古書会館、平成 24 (2012) 年 11 月 16 (金)、17 (土) 日一般公開 (プレビュー)、同年 11 月 18 (日)、19 日 (月) 入札会)
(平成 24 年 11 月 16 日追加) <<http://www.koten-kai.jp/catalog/information.php?siID=23>>

「1265 賀茂御祖神社田中家文書 正徳～昭和期 五代にわたる下鴨神社禰宜家の記録付和歌懐紙三十通 一括」(落札先は現時点では不明)

(18) 田中周友博士関連著作

・『京都帝国大学一覧』、『京都大学一覧』（各年版。京都帝国大学、京都大学。近代デジタルライブラリーにあり。〈<http://kindai.ndl.go.jp/>〉⇒国立国会図書館デジタルコレクション 〈<https://dl.ndl.go.jp/ja/>〉）

昭和4（1929）年

・「学界風聞記・京都帝大法学部教授の巻」『経済往来』（日本評論社）第4巻第1号（昭和4年新年号）35-43頁（当時田中博士は在外研究中（43頁））

昭和6（1931）年

・X・Y・Z「大学人物評論『京都帝大の巻』」『経済往来』第6巻第3号（昭和6年3月1日刊）204頁（平成20年3月19日追加）

（参考）『経済往来』「人物評論」欄「XYZ」のペンネームは、河合栄治郎、土方成美及び本位田祥男三氏（交代執筆）との由。（令和3年11月5日追加）

〈<https://www.sankei.com/smp/premium/news/160430/prm1604300001-s2.html>〉

・来間恭（大正8（1919）年三高卒）「京大展望『転落』への下りか上りか」『大阪毎日新聞』昭和6年5月11日～7月28日（田中博士に対する記載あり。）（平成22年10月13日追加）

神戸大学附属図書館デジタルアーカイブ「新聞記事文庫」：（人物伝記（4-026））

〈<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/das/SearchServlet>〉

〈http://www.lib.kobe-u.ac.jp/das/jsp/ja/ContentViewM.jsp?METAID=10086839&TYPE=HTML_FILE&POS=1〉

昭和8（1933）年

・住谷悦治（1895～1987）「京大法学部今昔物語伝統的自由主義の行方」『中央公論』48年7号（昭和8年7月号）（平成25年8月28日追加）

昭和12（1937）年

・「国立国会図書館のデジタル化資料」〈<http://www.ndl.go.jp/>〉中に下記あり（未見）。「研究抄録. 第三輯 国立国会図書館館内限定閲覧 図書 服部報公会 編（服部報公会, 1937）a.. 目次: 羅馬法大全中の新勅法の邦譯…田中秀央 田中周友」

服部報公会：〈<http://www.hattori-hokokai.or.jp/>〉（平成25年7月29日追加）

昭和13（1938）年

・林純平（崔演鳳、1909～？、林純平は筆名。）『関西学界展望』（文友堂書店、昭和13年6月16日刊）（近代デジタルライブラリーにあり。〈<http://kindai.ndl.go.jp/>〉

⇒〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1440522/1/1>〉）（小野博司（1979～）「『関西学界展望』の著者は誰ぞ」『大警視だより』続刊第19号（令和6（2024）年7月1日刊）53～54頁参

照。) (令和 6 (2024) 年 6 月 7 日一部修正)

昭和 16 (1941) 年

・『服部報公会研究報告』(第九輯 昭和十六年十一月)(昭和 16 年 11 月 15 日刊) 附録 4 頁 288 齣(近代デジタルライブラリーにあり。)

〈<http://kindai.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1071905>〉

援助成績発表論文及出版物 人文学 田中周友 羅馬法大全中新勅法の研究及邦訳(平成 25 年 7 月 29 日追加)

昭和 17 (1942) 年

・原田慶吉(1903~1950)「我が国に於ける外国法史学の発達」『東京帝国大学学術大観(法学部・経済学部)』(東京帝国大学、昭和 17 年 4 月 13 日刊)

〈<http://home.q02.itscom.net/tosyokan/data/HARADA007.html>〉(令和 5 (2023) 年 12 月 31 日閉館)

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1879592/1/1>〉

昭和 18 (1943) 年

・『服部報公会研究報告』(第十輯 日付なし)(昭和 18 年 2 月 25 日刊) 附録 3 頁 230 齣(近代デジタルライブラリーにあり。)

〈<http://kindai.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1071906>〉

援助成績発表論文及出版物 人文学 田中周友 羅馬法大全中新勅法の研究及邦訳(平成 25 年 7 月 29 日追加)

・『京都帝国大学史』(京都帝国大学、昭和 18 年 12 月 20 日刊) 200、208 頁(近代デジタルライブラリーにあり。〈<http://kindai.ndl.go.jp/>〉 →

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/1460809/1/1>〉)

昭和 25 (1950) 年

・矢田一男(1904~1966)「日本におけるローマ法学界の近況—原田教授の学風を偲んで—」『法律時報』第 22 卷第 12 号(昭和 25.12)

昭和 31 (1956) 年

・青地晨(1909~1984)「京都大学法学部—(法学部めぐり・3)」『法学セミナー』昭和 31 年 6 月号(通巻第 3 号) 59~62 頁(後に、吾妻京一郎(清水英夫氏のこと、1922~2013)『法学部物語』として一粒社より刊行(昭和 33 (1958) 年 7 月 1 日刊))

〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/9580491/1/1>〉(163~174 頁、87~93 齣)(平成 20 年 12 月 15 日、令和 6 (2024) 年 1 月 1 日各一部修正)

昭和 36 (1961) 年

・京都大学附属図書館編『京都大学附属図書館六十年史』(昭和 36 (1961) 年 3 月 30 日

刊) 66、67 頁 (田中博士の照影、同博士の附属図書館長時代の記事あり。)

〈<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/148402>〉

・田中耕太郎 (1890～1974) 『私の履歴書』 (春秋社、昭和 36 (1961) 年 10 月 5 日刊) 32、35 頁 (20、21 齣) 〈<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2934949>〉 (田中耕太郎博士に大正 4～5 (1915～1916) 年頃京大の羅馬法教授就任の話のありし件)

(参考) 後掲末川博 (1892～1977) ・我妻栄 (1897～1973) 「対談 日本の法学者を語る・蒲郡対談・連載第 4 回」『法学セミナー』第 179 号 (昭和 46 年 1 月 1 日刊) 67～69 頁 (我妻博士は、大正 3、4 (1914、1915) 年頃義兄の孫田秀春博士 (1886～1976) に京大羅馬法教授の後継者の話があったことを回想しておられる。ただし、孫田秀春『私の一生』 (高文堂出版社、昭和 49 年 8 月 25 日刊) には記載なし。) (令和 4 (2022) 年 7 月 2 日追加)

昭和 37 (1962) 年

・日本学士院『日本学士院八十年史』 (本編、資料編二) (昭和 37 年 3 月刊)

昭和 38 (1963) 年

・吉永榮助 (1912～1998) 「法学博士町田實秀先生—その人と学問—」『一橋論叢』第 49 巻第 3 号 (昭和 38 年 3 月 1 日刊。町田實秀: 1898～1971) 295～308 頁 (田中博士関連: 296、304 頁) (平成 24 年 9 月 11 日追加)

〈<http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/bitstream/10086/3243/1/ronso0490300010.pdf>〉 (アドレスのみ平成 25 年 6 月 3 日追加)

・『法学論叢第 73 巻第 5・6 号田中博士還暦祝賀記念号』 (昭和 38.9) (田中博士の照影あり。)

昭和 39 (1964) 年

・『京都大学法学部 有信会名簿 昭和 39 年』 (京都大学法学部有信会、昭和 39 (1964) 年 12 月 15 日刊。戦後はそれまでに昭和 29、34 年刊あり。) (令和 6 (2024) 年 1 月 1 日追加)

昭和 40 (1965) 年

・佐藤篤士 (1934～2006) 「日本におけるローマ法学の役割—日本におけるローマ法研究の歩みにたいする一つの反省—」『早稲田法学』第 40 巻第 1 号 (昭和 40 年 1 月 20 日刊) 53-99 頁 (佐藤『古代ローマ法の研究』 (敬文堂出版部、昭和 50 (1975) 年 4 月 25 日刊) に、第 1 章「日本におけるローマ法学の発達—日本におけるローマ法研究の歩みにたいする—反省—」と改題、補正して再録 (1-46 頁)) (下記 PDF 版参照。)

〈http://dspace.wul.waseda.ac.jp/dspace/bitstream/2065/1829/1/A03890546-00-040010_053.pdf〉 (この部分のみ平成 20 年 2 月 15 日追加)

昭和 42 (1967) 年

・『京都大学七十年史』 (京都大学、昭和 42 (1967) 年 11 月 3 日刊) (平成 20 年 3 月 27 日修正) 〈<https://dl.ndl.go.jp/pid/9581721/1/1>〉

昭和 44 (1969) 年

- ・赤井節 (1926～1966) 『ヘブライズム法思想史の研究・序説』 (創文社、昭和 44 (1969) 年 3 月 31 日刊。関西学院大学研究叢書第 28 篇)
<<https://dl.ndl.go.jp/pid/11894600/1/1>>

昭和 45 (1970) 年～昭和 46 (1971) 年

- ・『甲南法学第 11 巻第 2・3 合併号 竹田直平教授・田中周友博士古稀記念』 (昭和 45.9) (田中博士の照影あり。竹田直平: 1900～1998)
- ・末川博 (1892～1977) ・我妻栄 (1897～1973) 「対談日本の法学者を語る・蒲郡対談第 2 回」 『法学セミナー』 第 177 号 (昭和 45 年 11 月刊) 75～76 頁、「第 4 回」 『法学セミナー』 第 179 号 (昭和 46 年 1 月 1 日刊) 67～69 頁 (我妻博士は、大正 3、4 (1914、1915) 年頃義兄の孫田秀春博士 (1886～1976) に京大羅馬法教授の後継者の話があったことを回想しておられる。ただし、孫田秀春『私の一生』 (高文堂出版社、昭和 49 年 8 月 25 日刊) には記載なし。) (令和 4 (2022) 年 7 月 3 日追加)

昭和 46 (1971) 年

- ・甲南学園 50 年史出版委員会編『甲南学園 50 年史』 (甲南学園、昭和 46 (1971) 年 3 月 31 日刊) 580 頁以下

昭和 47 (1972) 年

- ・浅井清信 (1902～1992) 「民主主義のシンボル・末川先生」 『末川博随想全集第 5 巻』 月報 (栗田出版会、昭和 47 (1972) 年 7 月 3 日刊。末川博: 1892～1977) 2、3 頁 (平成 24 年 6 月 6 日追加)

昭和 49 (1974) 年

- ・柴田光蔵 (1937～2022) 「故岩田健次教授」 『法制史研究 37 (1973) 』 (昭和 49 (1974) 年 3 月 30 日刊。岩田健次: 1922～1973)
- ・「岩田健次教授略歴並びに著作目録」 『関西大学法学論集』 第 24 巻第 1・2 号 (昭和 49.6)

昭和 55 (1980) 年

- ・『産大法学 (京都産業大学) 第 13 巻第 4 号 (大石義雄教授・木村常信教授・梶田幸治教授・田中周友教授退職記念号) 』 (昭和 55.3) (田中博士の照影あり。大石義雄: 1903～1991、木村常信: 1901～1991、梶田幸治: ?～)

昭和 57 (1982) 年

- ・三宅信「ゼミ会便り・田中周友先生と『朱翠会』」 『有信会誌』 第 24 号 (昭和 57.3) (三宅氏は昭和 17 年 9 月卒 (山口高校卒) か。)

昭和 60 (1985) 年

- ・京都市編『史料 京都の歴史 8 左京区』（平凡社、昭和 60 (1985) 年 11 月 30 日刊)
(令和 6 (2024) 年 1 月 1 日追加)

昭和 62 (1987) 年

- ・岩野英夫 (1944～) 「わが国における法史学の歩み (1873-1945) - 法制史関連科目担任者の変遷 -」『同志社法学』第 39 巻第 1・2 号 (昭和 62.7) ⇒「平成 14 年」の項参照。
修正版あり。〈<http://ci.nii.ac.jp/naid/110000588862>〉 (平成 25 年 2 月 8 日一部修正)

昭和 63 (1988) 年

- ・上山安敏 (1925～2021) 「風間鶴壽先生を悼む」『法制史研究 37 (1987) 』 (昭和 63 (1988) 年 3 月 30 日刊。風間鶴壽: 1908～1985)
- ・牧英正 (1924～2018) 「私の法制史」『法学雑誌』 (大阪市立大学) 第 35 巻第 2 号 (昭和 63 年 12 月 20 日刊) 161～197 頁 (平成 27 年 5 月 31 日追加)

平成 2 (1990) 年

- ・『あかね』 (京一中洛北高校同窓会誌) 第 28 号 (京一中洛北高校同窓会、平成 2 (1990) 年 11 月 1 日刊) 17 頁 (「クラス会だより 七丘会 (大正七年卒) クラス会」に田中博士のお名前あり。) (平成 25 年 2 月 19 日追加)
〈https://kyo1c-rakuhoku.sakura.ne.jp/homepage_pre/gallery/akanemokuji/akanemokuji%2028gou/akane28mokuji.htm〉

平成 4 (1992) 年

- ・塙浩 (1925～2002) 『西洋諸国法史 (上) (下) 塙浩著作集 9 [西洋法史研究]』 (信山社、(上) 平成 4 (1992) 年 8 月 20 日刊、(下) 平成 4 (1992) 年 11 月 3 日刊)
(平成 8 (1996) 年 11 月 14 日 田中周友博士逝去)

平成 9 (1997) 年

- ・上山安敏 (1925～2021) 「「汎有信会大会」と思い出」『有信会誌』第 39 号 (平成 9.3.1) 5 頁 (田中周友博士の御逝去に言及あり。) (令和 6 (2024) 年 1 月 1 日追加)
- ・柴田光蔵 (1937～2022) 「田中周友先生を偲ぶ」『有信会誌』第 39 号 (平成 9.3.1) 63～64 頁
- ・『京都大学百年史 部局史編 1』 (京都大学後援会、平成 9 (1997) 年 9 月 30 日刊) 312、313 頁 〈<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/152877>〉

平成 10 (1998) 年

- ・上山安敏 (1925～2021) 「田中周友先生を偲ぶ」『法制史研究 47 (1997) 』 (平成 10 (1998) 年 3 月 30 日刊) 433、434 頁

平成 11 (1999) 年

- ・稲本紀昭(1940～)・佐藤文子(1965～)編『京都女子大学図書館所蔵 下鴨社家日記 I』(京都女子大学研究叢刊 31、京都女子大学、平成 11 (1999) 年 1 月 30 日刊)(関連論文については、上記「(16) 田中家文書関係資料 ア 京都女子大学図書館所蔵『下鴨社家日記』(田中家日記) 関係資料」参照。)(令和 5 (2023) 年 5 月 22 日追加)
<<https://ndlonline.ndl.go.jp/#!/detail/R300000001-I000002762175-00>>

平成 12 (2000) 年

- ・稲本紀昭(1940～)・佐藤文子(1965～)編『京都女子大学図書館所蔵 下鴨社家日記 II』(京都女子大学研究叢刊 35、京都女子大学、平成 12 (2000) 年 3 月 10 日刊)(同書 4「あとがき」(657 頁)によれば、「II 巻迄に収めえたのは、『下鴨社家日記』全体の一割にも満たない量であり、前途遙か、ではあるが、」とある。)(令和 5 (2023) 年 5 月 22 日追加)
<<https://ndlonline.ndl.go.jp/#!/detail/R300000001-I000002872435-00>>

平成 13 (2001) 年

- ・『京都大学百年史 資料編 3』(京都大学教育振興財団、平成 13 (2001) 年 3 月刊)
<<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/152877>>

平成 14 (2002) 年

- ・研究代表者岩野英夫(1944～)『法学教育における法史学の存在価値—わが国における法史学の成立と展開との関連で—』(平成 11 年度—平成 13 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2)研究成果報告)(平成 14 (2002) 年 3 月刊)(註: これには、前記岩野英夫「わが国における法史学の歩み(1873—1945)—法制史関連科目担任者の変遷—」(註: 昭和 62 (1987) 年 7 月刊)の修正版が収録されている。)
<<http://ci.nii.ac.jp/naid/110000588862>>

平成 15 (2003) 年

- ・瀧澤栄治(1954～)「塙浩先生を偲ぶ」『法制史研究 52 (2002)』(平成 15 (2003) 年 3 月 30 日刊。塙浩: 1925～2002)

平成 16 (2004) 年

- ・松尾尊兌(1929～2014)「滝川事件以後—京都大学法学部再建問題—」『京都大学大学文書館研究紀要』第 2 号(平成 16 (2004) 年 2 月 29 日刊)1～27 頁(24 頁(注 9)参照。瀧川幸辰(滝川)、1891～1962)(平成 21 年 5 月 10 日追加)
<<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/68812>>
- ・吉原丈司「明治 40 年 3 月末 [夏目] 漱石京洛滞在地覚書—田中周友先生御旧邸をめぐる—」『ローマ法・法制史学者著作目録選』(第 4 輯)(冊子版、平成 16 (2004) 年 3 月 1 日刊)77～80 頁(御旧邸住所: 京都市左京区下鴨森本町 24)
- ・上山安敏(1925～2021)「(追想) 翻訳による世界法史」塙浩(塙陽子(1930～)編)

『コクリコのうた』（信山社、平成 16（2004）年 4 月 16 日刊）149 頁

- ・西村重雄（1943～）「（追想）塙先生の『名言』」塙浩（塙陽子編）『コクリコのうた』（信山社、平成 16（2004）年 4 月 16 日刊）164、165 頁
- ・上山安敏（1925～2021）「はしがき」塙浩『ヨーロッパ私法史 塙浩著作集 20 [西洋法史研究]』（信山社、平成 16（2004）年 10 月 22 日刊）viii、ix 頁

平成 17（2005）年

- ・松尾尊兌（1929～2014）『滝川事件』（岩波現代文庫、平成 17（2005）年 1 月 18 日刊）114、151、153、242、247、261f.、264、270f.、298、301 頁
- ・菅原憲二（1947～）・飯塚一幸（1958～）・西山伸（1963～）『田中秀央 近代西洋学の黎明—『憶い出の記』を中心に』（京都大学学術出版会、平成 17（2005）年 3 月 25 日刊。田中秀央（ひでなか）：1886～1974）（佐伯好郎発田中秀央宛書簡）：266 頁、（春木一郎発田中秀央、田中周友宛書簡）：306、307、309～311 頁、（解説）：346、347 頁（平成 21 年 7 月 13 日追加、令和元年 5 月 13 日一部補正）
- ・わが国における法史学の歩み研究会（代表 岩野英夫（1944～））「聞き書き・わが国における法史学の歩み（5）—塙浩先生の法史学を語る—」『同志社法学』第 57 巻第 3 号（308 号、平成 17.9.30）（平成 15（2003）年 12 月 23 日、同志社大学での座談会の内容を収録、参加者：上山安敏、西村重雄、瀧澤栄治、三成美保、司会・総括：岩野英夫）（田中博士については、特に「8 田中周友」290～293 頁参照。）

〈<http://jairo.nii.ac.jp/0027/00022349>〉

- ・わが国における法史学の歩み研究会（代表 岩野英夫）「聞き書き・わが国における法史学の歩み（6）—塙陽子先生にお聞きする—」『同志社法学』第 57 巻第 4 号（第 309 号、平成 17.11.30）（平成 16（2004）年 2 月 29 日、同 17（2005）年 2 月 26 日二回のインタビュー、参加者：塙陽子（1930～）、岩野英夫、三成美保）（田中博士について、164、165、170、179、180、183、193、194、205 頁、西本穎博士（1904～1982）について 212、213 頁各参照。）

〈<http://jairo.nii.ac.jp/0027/00016141>〉

平成 19（2007）年

- ・和田隆夫（1951～）「恩師の思い出」『OUHS ジャーナル』第 184 号（大阪体育大学広報委員会、平成 19（2007）年 7 月 27 日刊、ネット掲載。同誌連載記事「我が青春の記」欄の一つ、田中周友先生の思い出と同先生御旧邸のことが書かれており貴重。）（平成 20 年 2 月 15 日追加）（下記「平成 25 年」の項参照。）

〈<http://www.ouhs.jp/ouhs-journal/184/184-20.html>〉

- ・経薫「夏目漱石の明治 40 年 3 月末京洛滞在地について—田中周友先生御旧邸をめぐる—」『国語教育』第 27 巻 6 号（通巻第 326 号、東京法令出版（株）、平成 19（2007）年 8 月 1 日刊）103 頁（「情報ファイル」）（平成 19 年 8 月 4 日追加）（HP 版（*））⇒「平成 16（2004）年」の関係記事参照。

〈<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/soseki001.pdf>〉

(参考)「田中周友先生御旧邸と夏目漱石滞在関係『毎日新聞』記事比較対照表」(平成 19 年 9 月 9 日追加) (HP 版 (*)) (**)

⇒ [〈http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/mainichi871029.pdf〉](http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/mainichi871029.pdf)

平成 20 (2008) 年

・西山伸 (1963～)「滝川事件について一宮本英雄氏聞き取り」『京都大学大学文書館研究紀要』第 6 号 (平成 20 (2008) 年 1 月 31 日刊) 65～98 頁 (瀧川幸辰 (滝川) : 1891～1962、宮本英雄: 1880～1973) (平成 21 年 5 月 10 日追加)

⇒ [〈http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/68876〉](http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/68876)

平成 21 (2009) 年

・西山伸 (1963～)「滝川事件について一牧健二氏・大隅健一郎氏聞き取り」『京都大学大学文書館研究紀要』第 7 号 (平成 21 (2009) 年 2 月 27 日刊。牧健二: 1892～1989、大隅健一郎: 1904～1998) 55～84 頁 (平成 21 年 5 月 10 日追加)

⇒ [〈http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/70922〉](http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/70922)

平成 22 (2010) 年

・「奥田昌道先生に聞く 1—恩師、民法学、スポーツ」(聞き手: 金山直樹 (1954～)、松岡久和 (1956～)、佐々木典子。奥田昌道: 1932～)『法律時報』第 82 巻第 10 号 (全 4 回連載、通巻 1026 号、平成 22 (2010) 年 9 月号、平成 22 (2010) 年 9 月 1 日刊) 56～67 頁 (田中博士: 62 頁) (平成 22 年 9 月 13 日追加)

平成 23 (2011) 年

・わが国における法史学の歩み研究会 (代表) 岩野英夫 (1944～)「聞き書き・わが国における法史学の歩み (八) —三浦澄雄先生にお聞きする—」『同志社法学』第 345 号 (平成 23 (2011) 年 1 月 31 日刊) 158～159 頁 (「関学の西洋法史担当者たち」の中で田中博士に言及。三浦澄雄: 1931～2008) (平成 23 年 12 月 18 日追加)

⇒ [〈http://ci.nii.ac.jp/naid/110008727287〉](http://ci.nii.ac.jp/naid/110008727287)

平成 25 (2013) 年

・柴田光蔵 (1937～2022)『ローマ法便覧』(ROMAHOPEDIA) (平成 25 年 7 月 1 日に、「京都大学学術情報レポジトリ KURENAI 紅」で公開された。田中博士関連記載もあり。⇒「はじめに (prologue.pdf)」X、XII、XIII 参照。) (平成 25 年 7 月 26 日追加)

⇒ [〈http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/175506/28/prologue.pdf〉](http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/175506/28/prologue.pdf)

⇒ [〈http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/175506〉](http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/175506) ⇒

⇒ [〈http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/175506/28/prologue.pdf〉](http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/175506/28/prologue.pdf)

⇒ 下記には、上記『ローマ法便覧』の「検索に簡便なアクセス目次」あり。

⇒ [〈http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/romahopedia_contents.pdf〉](http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/romahopedia_contents.pdf)

・和田隆夫（1951～）『社会保障・福祉と民法の交錯』（法律文化社、平成 25（2013）年 12 月 20 日刊）あとがき（「平成 25 年 11 月吉日」とある。田中周友先生の思い出と同先生御旧邸のことが書かれており貴重。上記「平成 19 年」の項参照。）

〈<http://www.hou-bun.com/cgi-bin/search/detail.cgi?c=ISBN978-4-589-03472-4>〉

〈https://www.hou-bun.com/12atogaki/03472-4_a.pdf#search=%E7%94%B0%E4%B8%AD%E5%91%A8%E5%8F%8B〉（平成 27 年 5 月 23 日追加）

平成 26（2014）年

・吉原達也（1951～）『学説彙纂』第五〇巻第一七章第一法文について—ポティエ『新編ユスティニアヌス学説彙纂』レグラエ論序章—『日本法学』第 80 巻第 2 号（日本大学法学部 創設百二十五周年記念号、平成 26（2014）年 10 月刊）77～105 頁

〈https://www.law.nihon-u.ac.jp/publication/pdf/nihon/80_2/80_2.pdf#zoom=60〉

〈https://www.law.nihon-u.ac.jp/publication/pdf/nihon/80_2/03.pdf#zoom=60〉（平成 27 年 2 月 9 日追加）

平成 27（2015）年

・「田中周友先生略年譜・著作目録（五訂稿）」『上山安敏先生略年譜・著作目録（三訂版）（完成稿）—卒壽記念—ローマ法・法制史学者著作目録選（第十一輯）（完成稿）—』（平成 27（2015）年 5 月 31 日刊）（同書中に「附属参考資料」として同稿を収録。）（平成 27 年 5 月 31 日追加）

平成 28（2016）年

・京都大学大学文書館「教員履歴データベース（京都大学歴代総長・教授・助教授履歴検索システム—対象：1949 年以前の在職者〔旧制〕—）」参照。（平成 29 年 11 月 20 日追加）

〈<https://kensaku.kual.archives.kyoto-u.ac.jp/rireki/>〉

「田中周友」

〈<https://kensaku.kual.archives.kyoto-u.ac.jp/rireki/?c=detail&id=000562>〉

（更新日：2016/8/31、システム管理番号 000562）

平成 30（2018）年

・「田中周友博士略年譜・著作目録（六訂版（六訂稿）」『CD 版 ローマ法、法制史、明治警察史及び日本統治下台湾警察史の諸問題—ローマ法・法制史学者著作目録選（第十三輯）— 明治警察史雑纂（第四輯）— 日本統治下台湾警察史雑纂（第八輯）—』（平成 30（2018）年 1 月 1 日刊）（令和元年 5 月 13 日追加）

令和 3（2021）年

・「田中周友博士略年譜・著作目録（七訂稿）」を HP に掲出（令和 3 年 11 月 7 日）（令和 3 年 12 月 7 日追加）

令和4(2022)年

- ・佐藤団「西本穎と黎明期の西洋法制史学」(一)、(二)・完『法学論叢』第190巻第4、5号(令和4(2022)年1、2月刊)(令和4(2022)年7月3日追加)
- ・「田中周友博士略年譜・著作目録(八訂稿)」『CD版:上山安敏先生略年譜・著作目録(五訂版)―上山安敏先生追悼―』併載:【附属参考資料1】上山安敏先生エッセイ集(1964~2004)【附属参考資料2】田中周友博士略年譜・著作目録(八訂稿)―ローマ法・法制史学者著作目録選(第十四輯)―』(令和4(2022)年2月1日刊)(令和3年12月18日追加)。
- ・佐々木健(1978~)「上山安敏先生の講義と著書(追悼報告)」(法制史学会近畿部会第464回例会報告、令和3年12月19日(日)午後、Zoomを用いたオンライン開催)⇒前掲『CD版:上山安敏先生略年譜・著作目録(五訂版)―上山安敏先生追悼―』併載:【附属参考資料1】上山安敏先生エッセイ集(1964~2004)【附属参考資料2】田中周友博士略年譜・著作目録(八訂稿)―ローマ法・法制史学者著作目録選(第十四輯)―』(令和4(2022)年2月1日刊)に要旨及び資料を収録。(令和3年12月18日追加)。
- ・佐々木健(1978~)「論文の戒め:田中周友先生と上山安敏先生―上山安敏先生追悼―」前掲『CD版:上山安敏先生略年譜・著作目録(五訂版)―上山安敏先生追悼―』併載:【附属参考資料1】上山安敏先生エッセイ集(1964~2004)【附属参考資料2】田中周友博士略年譜・著作目録(八訂稿)―ローマ法・法制史学者著作目録選(第十四輯)―』(令和4(2022)年2月1日刊)所収(令和3年12月18日追加)。
- ・『CD版 宮崎道三郎博士・小林宏先生・西村稔先生・高橋由利子先生略年譜・著作目録【参考篇】【附篇】―ローマ法・法制史学者著作目録選(第十五輯)―』(令和4(2022)年4月1日刊)(令和4(2022)年7月3日追加)

令和5(2023)年

- ・吉原達也「追悼の辞上山安敏先生のこと」『法制史研究72(2022)』(令和5(2023)年3月30日刊)569~577頁(令和5(2023)年5月22日追加)
- ・「【文献目録】柴田光蔵先生著作年譜抄」『法史学研究会会報』第26号145~151頁(令和6(2024)年2月23日追加)
- ・「<追悼>柴田光蔵教授追悼の辞」『ローマ法雑誌』第4号(電子版。日本ローマ法研究会、令和5(2023)年3月31日刊)428~435頁(西村重雄「柴田光蔵先生の思い出」、吉原達也「柴田先生を偲んで―学生の頃」、林智良「柴田先生の思い出」、佐々木健「柴田先生のこと」)(令和5(2023)年5月22日追加)
<<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/281604>>
<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/281895/1/ARK4_428.pdf>
>
- ・「田中周友博士略年譜・著作目録(十一訂稿)」をHPに掲出(令和5年5月22日)(令和5年5月22日追加)
- ・林信夫「(追悼)柴田先生 追想」、佐々木健「(追悼)柴田先生と」『有信会誌』第

77号（京都大学法学部同窓会誌、令和5（2023）年7月1日刊）（令和6（2024）年1月1日追加）

・『上山安敏先生追悼文集』（私刊、令和5（2023）年10月28日刊）

（「京大リポジトリ KURENAI」にも登録〈<http://hdl.handle.net/2433/285555>〉。）

（令和6（2024）年1月1日追加）

令和6（2024）年

・『柴田光蔵先生追悼集』（冊子版）（私刊（佐々木健教授編纂に係る。）、令和6（2024）年1月1日刊）（令和6（2024）年1月1日追加）

・「田中周友博士略年譜・著作目録（十二訂稿）」『CD版 上山安敏先生・柴田光蔵先生・西村稔先生・宮崎道三郎博士・池辺義象氏・小林宏先生・千賀鶴太郎博士・戸水寛人博士略年譜・著作目録 附録：「日本ローマ法・法制史学者等略年譜・著作目録・追悼辞」掲載資料抄（追補）中田薫博士・瀧川政次郎博士・三浦周行博士・牧健二博士各関係資料抄 —ローマ法・法制史学者著作目録選（第十六輯）—』（令和6（2024）年1月1日刊）中の「上山安敏先生略年譜・著作目録（六訂版）—上山安敏先生追悼Ⅱ—」に「【附属参考資料2】田中周友博士略年譜・著作目録（十二訂稿）」として収録。）

〈<https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I033346841>〉

（令和6（2024）年1月1日追加）

・林智良（1962～）（追悼の辞）「柴田光蔵先生イン・メモリアム」『法制史研究 73』（法制史学会、令和6（2024）年3月30日刊）（令和6（2024）年1月1日追加、同年6月7日一部修正）

(19) 田中周友博士関連報告 (令和 6 (2024) 年 6 月 7 日新設)

令和 6 (2024) 年

・ (報告) 宮坂渉 (1977～) 「戦間期から戦時期にかけての古代ローマ法研究——田中周友と原田慶吉」 (令和 6 (2024) 年 4 月 20 日 (土) 法制史学会東京部会第 287 回例会。貴重な資料あり。)

(参考)

〈 <https://www.jalha.org/tokyo/%e6%b3%95%e5%88%b6%e5%8f%b2%e5%ad%a6%e4%bc%9a%e6%9d%b1%e4%ba%ac%e9%83%a8%e4%bc%9a%e7%ac%ac287%e5%9b%9e%e4%be%8b%e4%bc%9a%e3%81%ae%e3%81%94%e6%a1%88%e5%86%85/>〉

法制史学会東京部会第 287 回例会のご案内

法制史学会 東京部会 法制史学会東京部会第 287 回例会のご案内 (令和 6 (2024) 3 月 14 日)

(中略)

〈日時〉 2024 年 4 月 20 日 (土) 13:30～ (17:30 終了予定)

〈場所〉 ①実地会場 : 中央大学茗荷谷キャンパス 3 E 0 9 教室(予定)

(東京都文京区大塚 1-4-1 (東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷」駅徒歩 1 分)

〈<https://www.chuo-u.ac.jp/access/myogadani/>〉

②オンライン : ウェブ会議システム Webex (Cisco Webex Meetings) を利用

【ミニ・シンポジウム「日本における法史研究の歴史 (2) : 1920-1945/50 年」準備会】

13:30-13:40 趣旨説明 (田口正樹: 東京大学法学政治学研究科教授)

13:40-14:15 「戦時期の日本法制史学と「固有法」の諸相」 (小石川裕介: 関西大学法学部准教授)

14:15-14:50 「黎明期における東洋法制史の担い手——内田智雄を例として」 (鈴木秀光: 京都大学法学研究科教授)

14:50-15:05 休憩

15:05-15:40 「戦間期から戦時期にかけての古代ローマ法研究——田中周友と原田慶吉」 (宮坂渉: 筑波大学人文社会系准教授)

15:40-15:55 コメント 1 (駒込武: 京都大学教育学研究科教授)

15:55-16:10 コメント 2 (水津太郎: 東京大学法学政治学研究科教授)

16:10-16:25 休憩

16:25-17:30 質疑応答

・ (報告) 宮坂渉 (1977～) 「戦間期から戦時期にかけての古代ローマ法研究 ——田中周友と原田慶吉」 (令和 6 (2024) 年 5 月 26 日 (日) 法制史学会第 75 回総会。貴重な資料あり。)

(参考)

〈 <https://www.jalha.org/wordpress/wp-content/uploads/2024/03/ca5c17ada0f4efae565d7de5659ff172.pdf>〉

<https://www.jalha.org/soukai2/>

<https://www.jalha.org/soukai2/%e3%80%90hp%e6%8e%b2%e8%bc%89%e7%89%88%e3%80%91%e6%b3%95%e5%88%b6%e5%8f%b2%e5%ad%a6%e4%bc%9a%e7%ac%ac75%e5%9b%9e%e7%b7%8f%e4%bc%9a%e6%a1%88%e5%86%85%e7%8a%b6/>

法制史学会第 75 回総会のご案内

春陽の候、会員のみなさまにおかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて法制史学会第 75 回総会（共催：大阪大学大学院法学研究科）は、対面方式で開催いたします。対面のみでの開催は 2019 年の第 71 回総会以来ですので、奮ってご参加ください。（以下中略）

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-6 大阪大学大学院法学研究科内

法制史学会第 75 回総会準備委員会（代表：林智良）

E-mail : jalha-75-colloquium@office.osaka-u.ac.jp

2 総会プログラム

第 1 日 5 月 25 日（土）（以下中略）

第 2 日 5 月 26 日（日）

9 : 30 ~ 12 : 30

〔ミニ・シンポジウム 2〕 「日本における法史研究の歴史（2）：1920-1945/50 年」

9 : 30 ~ 9 : 40 「趣旨説明」

田口正樹（東京大学）

9 : 40 ~ 10 : 15 「戦時期の日本法制史学と『固有法』の諸相」

小石川裕介（関西大学）

10 : 15 ~ 10 : 50 「黎明期における東洋法制史の担い手—内田智雄を例として」

鈴木秀光（京都大学）

10 : 50 ~ 11 : 05

休 憩

11:05~11:40 「戦間期から戦時期にかけての古代ローマ法研究 —田中周友と原田慶吉」

宮坂渉（筑波大学）

11 : 40 ~ 12 : 30 質疑応答

（以下中略）

(20) インターネット関係

・法制史学会ホームページに、平成 18 (2006) 年 5 月 2 日、「法制史学会の歩み」のページが新設され、「1.法制史学会の立ち上げの頃」、「創立総会の記念写真(昭和 24 (1949) 年 11 月 23 日、於中央大学)」等が掲載された。田中博士の関係記事、御写真あり。

〈<https://www.jalha.org/>〉

・国立国会図書館次世代デジタルライブラリーで再検索の要ありか。

〈<https://lab.ndl.go.jp/service/tsugidigi/>〉 (令和 4 (2022) 年 4 月 1 日追加)

(調査中) (試験問題追加その他)

・田中周友博士出題試験問題 (追加)

(九訂稿 (令和 4 (2022) 年 4 月 1 日刊) で記載したが、十訂稿 (令和 4 (2022) 年 7 月 3 日刊) では、上記「2 著作目録 (13) 田中周友博士出題試験問題」に転記した。以後同じ。)

・『有信会誌』(京都大学法学部同窓会誌) 第 4~7 号 (有信会でも欠号との由)

・『京都大学法学部父兄懇談会会報』(昭和 27 年 12 月~??)

・CiNii 〈<https://ci.nii.ac.jp/>〉 ⇒ 〈<https://cir.nii.ac.jp/>〉 定額、オープンアクセス分 (平成 27 年 5 月 31 日追加、令和 4 年 7 月 3 日一部修正)

【参考】【五訂版（五訂稿）人名索引】

田中周友博士研究の参考として、「田中周友博士略年譜・著作目録（五訂版（五訂稿））（平成 27（2015）年 5 月 31 日作成）」での「人名索引」を附載しておく。ただし、爾後の新出人名、生没年等でその後に判明したものは追記した。なお、**本十三訂稿**は電子版であることからして、これでもってほぼ検索できるものかと思われる。

【人名索引】

〔目 次〕

〔日本人〕	91
〔外国人〕	96
（附）〔事項索引抄〕	97

〔日本人〕

あ行

（あ）

青江舜二郎（1904～1983）：46,47

青地晨（1909～1984）：50

赤井節（1925～1966）：8,14,23,31,52

赤井伸之（1947～）：20

浅井清信（1902～1992）：52

浅田邦生（筆名）⇒岩浅武久

吾妻京一郎（清水英夫氏のこと, 1922～2013）：51

新木直人（1937～）：47

（い）

飯塚一幸（1958～）：18,54

池辺義象（1861～1923）：1,3 [

石部雅亮（1933～ [2023] ）：19

一柳俊夫（1925～？）：17,21

猪木正道（1914～2012）（八訂稿新出）

岩浅武久（筆名：浅田邦生、[1944] ～）：4,30,32

岩田健次（1922～1973）：19,52

岩野英夫（1944～）：52～56

（う）

上山安敏（1925～2021）：1,2,4,7,11,19,39,45～47,53,54,57

（え）

江草四郎 (1900～1992) : 15
江藤淳 (1933～1999) : 36,40～42,44,45,47,48
(お)
大石義雄 (1903～1991) : 52
大隅健一郎 (1904～1998) : 55
太田久佐太郎 (久佐大人, 1891～1955) : 8,22,23,29～35
太田稠夫 (シゲオ, 雅号: 久佐太郎, 1891～1955) ⇒太田久佐太郎
大塚保治 (1868～1931) : 46
大場修 (1955～) : 34,37
岡三郎 (1929～2020) : 47,48
奥田昌道 (1932～) : 56
落合太郎 (1886～1969) : 21
小野博司 (1979～) : (十三訂稿新出)
小野木常 (1909～1991) : 27

か行

(か)

風間鶴壽 (1908～1985) : 53
梶田幸治 (? ～) : 52
片岡輝夫 (1924～2011 [?]) : 17
金山直樹 (1954～) : 56
狩野亨吉 (かのう, 1865～1942) : 36,40～48

(き)

吉川大二郎 (きっかわ, 1901～1978) : 24
木村尚三郎 (1930～2006) : 19
木村常信 (1901～1991) : 52
(く)
久佐太郎 ⇒久佐さん ⇒久佐大人 ⇒太田久佐太郎
栗生武夫 (1890～1942) : 1
来間恭 (? ～?, 大正 8 (1919) 年三高卒) : 49

(け)

経薫: 7,36,55

(こ)

小早川欣吾 (1900～1944) : 2
小林宏 (1931～) : 46
古林善祐 (1910～1999) : 21

さ行

(さ)

齋藤治 (? ~) : 31,34

齋藤常三郎 (1878~1951) : 11,12,17

坂本雨声 (? ~?) : 31,34

佐久間勝 (? ~?) : 23

佐々木健 (1978~) :

佐々木典子 (? ~) : 56

佐藤丑次郎 (1877~1940) : 16

佐藤篤士 (とくじ, 1934~2006) : 51

(し)

柴田光蔵 (1937~ [2022]) : 52,56

清水兼男 (1906~ [1989?]) : 15

清水英夫 (1922~2013) : ⇒吾妻京一郎 (筆名)

新村出 (1876~1967) : 9

(す)

末川博 (1892~1977) : 17,27,52

末松生子 (子爵夫人, 1868~1934) : 7

末松謙澄 (1855~1920) : 24

菅虎雄 (1864~1943) : 46

菅原憲二 (1947~) : 18,54

住谷悦治 (1895~1987) : 49

(せ)

千賀鶴太郎 (1857~1921) : 1,3

(そ)

漱石 ⇒夏目漱石

た行

(た)

高田篤 ([1960] ~) : 11

高浜虚子 (1874~1959) : 46,47

瀧川春雄 (1918~1979) : 23

瀧川幸辰 (滝川, 1891~1962) : 23,54,55

瀧澤栄治 (1954~) : 54

竹田直平 (1900~1998) : 52

田中暁人 (田中周友博士雅号) : 32,34

田中周友 (かねとも, 1900~1996) : (省略)

田中周道 (田中周友博士厳父) : 40,42,44

(田中周友博士) 両親: 41,43

田中秀央（ひでなか：1886～1974）：18,21,27,50,54

田中康子（田中周友博士令室）：7,46

田中雪枝（田中周友博士母堂）：36,40,42～44,48

（つ）

辻晶子（? ～）：34,37

恒藤恭（1888～1967）：17

（と）

常盤敏太（1899～1978）：24

戸水寛人（1861～1935）：1,3

な行

（な）

中山好雄（〔1934〕～〔2023〕）：46

夏目漱石（1867～1916）：3,5,7,34,36～48,55

（に）

西賢（1928～）：19

西村重雄（1943～）：54

西本穎（1904～1982）：8,55

西山伸（1963～）：18,54,55

は行

（は）

長谷川良一（1926～2017）：（八訂稿新出）

塙浩（1925～2002）：53,54

塙陽子（1930～）：54,55

早川桜月（? ～）：32,35

林純平（? ～?）：50

原武哲（1932～）：46

原田慶吉（1903～1950）：1～3,24,25,50

春木一郎（1870～1944）：1～3,11,13,16,21

（ひ）

平田公夫（1948～）：7,46

（ふ）

藤田平太郎（男爵, 1869～1940）：7

船田享二（1897～1970）：1～3,24,25

（ほ）

堀内雲鼓（うんこ, 1665～1728）：33,34

堀口昇（? ～?）：21

ま行

(ま)

前田正治 (1913～1998) : 18

牧健二 (1892～1989) : 55

牧英正 (1924～2018) : 53

正岡子規 (1867～1902) : 40,42,44

町田實秀 (1898～1971) : 23,51

松尾明美 (? ～) : 33,35

松尾尊兌 (1929～2014) : 34,39,54

松岡久和 (1956～) : 55

(み)

三浦澄雄 (1931～2008) : 56

水川隆夫 (1934～) : 48

三成美保 (1956～) : 54,55

三戸壽 (たもつ、1908～1971) : 23

三宅信 (? ～) : 14,52

宮内裕 (1914～1968) : (八訂稿新出)

宮坂渉 (1977～) : (十三訂稿新出)

宮本英雄 (1880～1973) : 55

(む)

武藤智雄 (としお、1899～1962) : 1,3,19,21,23

村崎野石 (? ～) : 33

や行

(や)

矢田一男 (1904～1966) : 50

(よ)

吉永榮助 (1912～1998) : 51

ら行

(ろ)

ローマ法学四先生: 1,3

ローマ法学五先生: 1,3

ローマ法学七先生: 1,3

わ行

(わ)

和田隆夫 ([1951] ～) : 37,55,56

その他

X・Y・Z: 49

(参考)『経済往来』「人物評論」欄「XYZ」のペンネームは、河合栄治郎、土方成美、本位田祥男三氏(交代執筆)との由。(令和3年11月7日追加)

〔外国人〕

ア行

ウェスパシアヌス(ウエスパシアヌス, 9~79): 24

ヴィレー, ミシェル(1914~1988): 14

カ行

カラカラ(188頃~217): 24

コシャーカー(1879~1951): 25

サ行

ソクラテス(前470頃~前399): 22

ゾーム(1841~1917): 25

タ行

タウベンシュラーク(1881~1958): 20

ディオクレティアヌス(245頃~313頃): 24

ハ行

ハンムラビ(前1792~前1750): 29

ベンディクス, アンナ(1900~1929): 23

ホメーロス(前8世紀頃): 21

ポティエ(1699~1772): 56

ボンファンテ(1864-1932): 22

マ行

ミッターイス, ルードヴィッヒ(1859~1921): 15

ヤ行

ユスチニアヌス帝(ユスティニアヌス帝, ユ帝, 儒帝, 483~565): 12, 16, 18~21

(附) [事項索引抄]

あ行

アジール: 12,17

アマゾン女人国: 21,22

オストラキスモス (陶片追放制): 17

か行

学説彙纂: 19,20,56

賀茂御祖神社: 35,47,49

冠句: 3,5,29~35

木村家 (木村方、京都・下鴨): 46,48

旧約聖書: 22

京都大学学術情報レポジトリ KURENAI 紅: 56

京都大学事件 (いわゆる天皇事件): 26

京都大学西洋法史研究会: 9,19,26

『京に着ける夕』(夏目漱石): 37~45,47,48

『現代外国法典叢書』: 24

古代庇護法史: 11,12,15

さ行

下鴨神社禰宜家: 35,49

朱翠会: 14,52

朱翠居: 14

十二表法: 24

私立福知山工業専門学校: 8,30,31

新勅法: 12,16,18,19,50

世界法史 (『世界法史概説』): 9,14,27

た行

滝川事件: 54,55

滝川文庫: 13,14

田中周友先生出題試験問題: 3,5,28,57

田中周友博士学位論文: 3,5,8,11,12,15

田中周友博士御旧邸 (旧邸): 3,5,7,34,36~38,44,45,47,48,54~56

田中家: 3,35,36,40~44,48,49

田中家文書: 5,35,49

勅法彙纂: 12,17

帝国学士院子爵夫人末松生子羅馬法奨励奨学品: 7

帝国学士院藤田男爵奨学費羅馬法学奨学費受費: 7

は行

服部報公会: 27,50

パピルス学: 12,13,15

パピルスの法: 16

比較法制史: 13

『文藝塔』(『文芸塔』、冠句雑誌): 8,22,23,30~35

封建法書: 19

法律パピールス学: 11~13,15

母権制: 21

ら行

ローマ法大全(羅馬法大全): 21,50

『ローマ法便覧』(柴田光蔵): 56

(欧文)

Asyl: 12,16,28

SCHWABENSPIEGEL: 19

(了)